

科目名	科目担当代表教員	ページ数
キャリアビジョン	池野 秀則	3
リハビリテーション工学	金谷 匡紘	7
臨床薬理学	續 佳代	11
救急医学	沢本 圭悟	15
地域包括ケアシステム論	水本 淳	19
統計と社会調査法	小田 史郎	23
チーム医療概論	佐藤 明紀	28
理学療法研究法	佐々木 幸子	32
理学療法研究セミナー	橋田 浩	36
理学療法研究Ⅰ	橋田 浩	41
理学療法研究Ⅱ	橋田 浩	46
医療統計学	加茂 憲一	51
理学療法管理学	横井 裕一郎	55
理学療法評価学Ⅲ	松田 直樹	60
高次脳機能障害学	太田 久晶	64
物理療法学実習	水本 淳	68
物理療法学実習	水本 淳	72
義肢装具学	牧野 均	76
義肢装具学実習	牧野 均	81
義肢装具学実習	牧野 均	85
運動器障害理学療法学	橋田 浩	89
運動器障害理学療法学実習	高田 雄一	94
運動器障害理学療法学実習	高田 雄一	98
神経障害理学療法学	柴田 恵理子	102
神経障害理学療法学実習	柴田 恵理子	107
神経障害理学療法学実習	柴田 恵理子	111
内部障害理学療法学	佐藤 明紀	115
内部障害理学療法学実習	佐藤 明紀	120
内部障害理学療法学実習	佐藤 明紀	124
子どもの理学療法学	横井 裕一郎	128
子どもの理学療法学実習	横井 裕一郎	133
子どもの理学療法学実習	横井 裕一郎	137
日常生活活動学実習	佐々木 幸子	141
日常生活活動学実習	佐々木 幸子	145
理学療法総合セミナー	佐藤 明紀	149
徒手理学療法技術セミナー	大森 圭	154
徒手理学療法技術セミナー	大森 圭	159
スポーツ領域理学療法技術セミナー	高田 雄一	164
スポーツ領域理学療法技術セミナー	高田 雄一	169
トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー	大森 圭	174
トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー	大森 圭	179

高齢者理学療法学	佐々木 幸子	184
地域理学療法学	水本 淳	188
地域理学療法学演習	水本 淳	192
地域理学療法学演習	水本 淳	197
臨床実習Ⅳ(評価)	高田 雄一	202
臨床実習Ⅴ(総合)	池野 秀則	207
臨床実習Ⅵ(総合)	牧野 均	212
臨床実習Ⅳ	池野 秀則	217
臨床実習Ⅴ	牧野 均	222

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリアビジョン				ナンバリング	1134
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	池野 秀則						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。また、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。

授業の概要

先輩理学療法士(学科教員)の講義を聞いて理学療法士に求められる、多角的な視点で課題を探究し、将来的なビジョンを追求することを学ぶ。

到達目標

先輩理学療法士のこれまでの経緯・研究内容・ビジョンについて聴講し、将来的な理学療法士としてのビジョンを論じることができる。

授業の方法

先輩理学療法士(学科教員)からパワーポイントやハンドアウトを用いて講演を聴講し、出された課題についてレポート(感想文)を提出する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務した経験を活かして理学療法士の業務内容や他職種との関りについて授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしてレポートにコメントを返す。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.オリエンテーション ・この授業の内容と到達目標について 内容:教員になるまでの経緯と研究テーマ等について 到達目標:講師の話を聞いて自分なりのキャリアビジョンを形成する 講演1:物療室からリハビリ室へ(池野)	授業概要を確認しておくこと。 (90分)	到達目標に対して自分なりのビジョンを持つこと。講演を聞いた内容についてレポートにまとめる (90分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	講演2:柴田恵理子先生 「女性研究者としてのキャリア形成」	レジュメを事前に読んでおくこと。 (90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員			
第3回	講演3:佐々木幸子先生 「急性期～地域における理学療法、研究者への道」	レジュメを事前に読んでおくこと。 (90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員			
第4回	講演4:橋田浩先生 「私の理学療法士としての道のり」	レジュメを事前に読んでおくこと。 (90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員			
第5回	講演5:佐藤明紀先生 「海外経験で広がった理学療法の視野」	レジュメを事前に読んでおくこと。 (90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員			

第6回	講演6:南部路治先生 「20年前に想像していた今と理学療法士の可能性」	レジュメを事前に読んでおくこと。(90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。
担当教員			
第7回	講演7:松田直樹先生 「攻めと守りのキャリアを考える～現代の理学療法士の働き方～」	レジュメを事前に読んでおくこと。(90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	講演8:横井裕一郎先生 「これからの理学療法士、理学療法教育について考える」	レジュメを事前に読んでおくこと。(90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出レポートの内容	
その他	0	なし	
教科書			
なし			
参考文献			
なし			
履修条件・留意事項等			

履修条件は2/3の出席。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		リハビリテーション工学				ナンバリング	2232
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、田中 栄一、梅田 信吾						
授業の位置づけ							
<p>リハビリテーションにおける身体機能および能力の補助的な手段に多様な機器等が開発されており、医療から福祉、介護までその領域は広く、その特性を工学的な視点から実用性に至るまでの視点を身につけるための科目である。作業療法および理学療法を実践するために必要な基本的知識および技能を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」および「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。」と関連している。「運動学Ⅰ」、「運動学Ⅱ」、「運動学実習」、「機能代償学」、「理学療法技術セミナーⅠ」と関連する。</p>							
授業の概要							
<p>リハビリテーションのための工学の基礎を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について学ぶ。特に理学療法士・作業療法士に必要な人体の制御機能および情報処理特性などに関して生体力学・人間工学的観点から、その特性に適合した福祉機器の開発とその利用方法について学習する。</p>							
到達目標							
<p>リハビリテーション工学の概要を理解し、説明できる。 車いすの種類や構造、その適応について理解し説明できる。 自助具、医療・福祉機器等を用いた生活の支援方法について理解し、説明できる。</p>							
授業の方法							
<p>パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。また、最新のトピックス等の情報も適宜、提供する。 理解度についてまとめのテストを用いて確認する。</p>							
ICT活用							
<p>Google classroom等を用いた資料提供やフィードバック等を実施する予定である。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>全ての教員がリハビリテーション工学に携わる実務経験を有する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
授業中に適宜、質問を受けます。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	リハ工学総論。リハビリテーション工学の歴史をはじめ福祉機器の開発や医学と工学の連携などリハビリテーション工学の概要を学習する。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第2回	車椅子の種類、構造など身体機能に合わせた車椅子の知識や技術について学習する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第3回	コミュニケーション障害における用具支援について コミュニケーションが困難な方への用具活用について学びます。	コミュニケーションに関連する解剖学生理学について復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第4回	身近なICTを活用 スマホやパソコンのアクセシビリティ機能について学び、余暇や学習支援での活用方法を学びます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第5回	eスポーツ Eスポーツにおけるアクセシビリティと、リハビリテーション場面での活用方法について学びます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		

第6回	<p>自助具について考えよう①</p> <p>身の回りの困難さを用具を使って解決する方法を生活機能分析の視点から考えます。</p>	<p>これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)</p>	<p>授業の復習をしておくこと(90分)</p>
担当教員	田中 栄一		
第7回	<p>自助具について考えよう②</p> <p>身の回りの困難さを用具を使って解決する方法を生活機能分析の視点から考えます。</p>	<p>これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)</p>	<p>授業の復習をしておくこと(90分)</p>
担当教員	田中 栄一		
第8回	<p>リハビリテーション工学についてまとめとテストを用いて復習し、理解を深める</p>	<p>これまでの授業で学んだことを復習しておくこと(90分)</p>	<p>全体の授業を通して復習をしておくこと(90分)</p>
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外テスト(40%)、講義内課題(30%)、出席態度・参加度等(30%)	
その他	0		
教科書			
なし			
参考文献			
都度紹介する			
履修条件・留意事項等			

8回中3回の欠席で単位の認定が不可

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床薬理学				ナンバリング	2346
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	續 佳代						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」また、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・機能)」ことと特に関係のある科目である。解剖学、生理学を習得していることが前提で、授業中の患者様の作業療法、理学療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。</p>							
授業の概要							
<p>医療において薬物治療の位置づけは非常に重要である。作業療法、理学療法は入院治療の一環として薬物療法と、精神療法とともに行われるものである。ほとんど全ての患者は薬物治療で症状をコントロールしながら作業療法、理学療法を受けていることをいつも考えていなければならない。講義では臨床で頻繁に出会う疾患に使用する薬剤の種類、薬効、薬効の持続、副作用について概説するので、適正な作業療法、理学療法に生かせる知識を習得する。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・剤形の種類と投与方法、体内における吸収、代謝、排泄までを概説できる。 ・各疾患治療薬の薬効と副作用を概説できる。 ・薬と薬、薬と食品やサプリメントの相互作用について概説できる。 							
授業の方法							
<p>パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。 復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法士、理学療法士が薬理学を学ぶ意義について理解する。 薬に関する基礎知識(薬の名称、薬の剤形、投与経路と吸収、体内動態、薬物作用部位など)を理解する。 	自分のお薬手帳に記載されている薬品名、用法・容量など、まず薬に興味を持つこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	薬物依存症 <ul style="list-style-type: none"> 薬物の依存、耐性、逆耐性現象、離脱症状について理解する。 依存性薬物の種類と心身に及ぼす作用の特徴について理解する。 	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	末梢神経の疾患と薬 <ul style="list-style-type: none"> 自律神経系における情報伝達を理解する。 副交感神経系作用薬について理解する。 交感神経系作用薬について理解する。 痙縮治療薬について理解する。 	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	中枢神経系の疾患と薬 <ul style="list-style-type: none"> 神経伝達物質と受容体の関係を理解する。 中枢神経系の疾患(統合失調症、パーキンソン病、アルツハイマー病)の治療薬について理解する。 	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	中枢神経系の疾患と治療薬 <ul style="list-style-type: none"> 中枢神経系疾患(不眠症、睡眠障害、うつ病、双極性障害、神経症性障害、注意欠如・多動性障害、ナルコレプシー)の治療薬について理解する。 	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第6回	循環器系の疾患と薬 ・狭心症、心筋梗塞の治療薬について理解する。 ・抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬について理解する。 ・高血圧治療薬、利尿薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	抗炎症薬、鎮痛薬 ・炎症、痛みと抗炎症薬、鎮痛薬について理解する。 ・抗炎症薬(ステロイド剤、NSAIDs)について理解する。 ・鎮痛薬(オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬、神経障害性鎮痛薬)について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第1回目から第7回目までのまとめの復習試験と解説を行う。	第1回目から第7回目までに配布した問題を学習しなおし、復習試験の準備をしておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記による復習試験で評価する。	
その他	0		
教科書			
薬がみえる vol.1 (第2版)メディックメディア			
参考文献			
なし			
履修条件・留意事項等			

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定となります。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		救急医学				ナンバリング	2318
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	沢本 圭悟、高橋 信行、相坂 和貴子、水野 浩利						

授業の位置づけ

医療の現場において必要とされる救急医療について講義を行う。理学療法学科のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連がある。また作業療法学科のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「作業療法を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」と関係がある。また、「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)」と関係している。

授業の概要

応急処置を適切に行うことは医療関係者のみならず、一般の人間にも必要とされる。講義では主な外傷と疾病について応急処置の方法およびその必要性を説明する。また、応急処置を必要とする病態についても解説する。専門科目の急性期の身体障害作業療法分野の基礎となる。

到達目標

- (1) 医療施設以外の場所で正しい応急処置を行うことができる。
- (2) 外傷に対する応急処置の必要性を説明することができる。
- (3) 生命の危険を生じる危険性の高い疾患について説明することができる。
- (4) 正しい一次救命処置を実施することができる。

授業の方法

スライドを中心に講義を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

現役の救急専門医等が講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
試験結果についてフィードバックを行う予定である。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	外傷(1)皮膚の損傷 応急処置、病院での処置、皮膚の構造、生体の防御反応、皮膚表面の細菌、皮膚の再生	皮膚の損傷について、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	沢本 圭悟		
第2回	外傷(2)骨折・脱臼・捻挫 応急処置、病院での処置、骨の構造、骨折の合併症、関節の構造、四肢の骨折・捻挫・脱臼	骨折・脱臼・捻挫について、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	高橋 信行		
第3回	外傷(3)重要臓器の外傷 応急処置、病院での処置、頭部外傷、頭蓋内血腫、頸髄損傷、胸部外傷	臓器の仕組みについて、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	沢本 圭悟		
第4回	外傷(4)出血 応急処置、病院での処置、大量出血とショック、輸血、血液と感染症、止血機能障害	出血が身体に及ぼす影響を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	相坂 和貴子		
第5回	疾病(1)体温異常・熱傷・感電 応急処置、病院での治療、発熱と解熱、熱傷と凍傷、体温調節、感電	体温調節における生理学的機序について予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	相坂 和貴子		

第6回	疾病(2)中毒 応急処置、病院での治療、ガス中毒、食中毒、アナフィラキシー	中毒にはどのようなものがあるかを予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	水野 浩利		
第7回	(疾病3)心筋梗塞・脳梗塞 血管病変の救急。	心筋梗塞・脳梗塞について復習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	水野 浩利		
第8回	定期試験外試験とまとめ	試験範囲について復習をしておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	沢本 圭悟		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	試験の成績	
その他	0		
教科書			
指定しない。			
参考文献			
指定しない。			
履修条件・留意事項等			

学生証を用いた出席認証を行う予定のため、忘れず持参すること。

備考欄

非常勤講師の都合上、授業はシラバス順また、時間割通りとならないことがある。この場合、なるべく早めにスケジュールを通知する。

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		地域包括ケアシステム論				ナンバリング	2290
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」「医療に関わる他の職種役割を理解し、協力関係を築くことができる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。」「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている。」「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個性を尊重できる。」などとも関係する。</p>							
授業の概要							
<p>在宅療養者と家族の生活を支える社会保障サービスおよび介護保険制度の仕組みを理解し、地域包括ケアシステムにおける関係職種・関係機関の役割について理解する。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の基本的な連携について説明できる。 ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について説明できる。 ・在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて説明できる。 							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントと配布資料、視聴覚教材を用いた講義形式で進める。 ・授業の理解度確認のため小テストを実施する。 ・ゲストスピーカーによる地域における実践例について、レポート課題を実施する。 							
ICT活用							
<ul style="list-style-type: none"> ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。 							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域包括ケアシステムに関する授業を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。 ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。 			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地域包括ケアシステム論の概要について 1) 地域包括ケアの概念 2) 地域連携の理論と方法 3) 我が国の社会保障制度の変遷 4) 我が国の医療の背景と特徴, ケアサイクルの概念と理論 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	地域連携の方法論と地域包括ケアシステムにおける地域連携と多職種連携について 1) インテグレートケア 2) 連携の方法 3) 地域包括ケアシステムが求められる背景 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	地域医療と介護のシステム化 1) 様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	地域包括ケアシステムにおけるリハ職の役割 1) 退院支援から地域連携におけるリハ職や看護職の役割 2) 退院支援のプロセス 小テスト1	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第5回	小テスト1の解説 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割 1) 薬剤師、ソーシャルワーカーなど他の役割 2) 地域連携の展望と課題 3) 認知症ケアが必要とする地域連携 4) 小規模多機能型居宅介護が進める地域連携 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			

第6回	生活をつなぐ地域連携、医療・介護・福祉の地域ネットワークづくりの取り組み ゲストスピーカー:未定	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員			
第7回	地域包括ケアにおける地域連携の実践 ゲストスピーカー:未定	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員			
第8回	地域包括ケアシステムの展望について 小テスト2	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	出席を含む講義・演習への参加態度(30%) 課題レポート(30%)	
その他	40	小テスト:2回(40%)	
教科書			
地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹／オーム社			
参考文献			
講義内で紹介する			
履修条件・留意事項等			

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		統計と社会調査法				ナンバリング	2288
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小田 史郎						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーのうち、全学科に共通する問題解決能力の修得、すなわち(1)問題を発見し、必要な情報を収集する能力、(2)得られた情報に基づき、適正に評価をする能力、(3)これをまとめて他者に伝える能力を身につける能力を修得する科目である。							
授業の概要							
統計に関する基礎知識の上に乗って、自らの課題解決のための調査実施の原理と方法を理解し、疫学的調査の基本技術を身につける。特に社会集団を観察するとはどのようなことなのか、母集団や標本の設定、質問票の作成や集計、統計処理など、社会調査全般について実践的に学ぶ。							
到達目標							
①学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、調査計画を立てることができるようになる。 ②学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、質問紙を作成することができるようになる。 ③学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、データを分析し、まとめることができるようになる。							
授業の方法							
パワーポイント、配付印刷物を活用しながら、講義形式で進める(全15回)。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の小レポートに対しては、内容に関する質問に回答します。 最終レポートについては第15回の講義時に講評します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンスにおいて講義の流れや評価の方法について確認する。また社会調査とは何か、社会調査の目的やその分類について学ぶ。	シラバスを読み、社会調査の定義について調べておく(30分)	自分が調査したいテーマについて関連する資料を探しておく(150分)。
担当教員			
第2回	社会調査の流れについて、フローチャートに基づいて学ぶ。全体像をつかんだ後、最初に行うべき基礎資料の収集法について学ぶ。	社会調査の流れについて示した文献を探し、読んでおく(60分)。	講義で習った方法を用いて、調査テーマに関連する文献検索と収集を行う(120分)。
担当教員			
第3回	文献の読み方について学ぶ。調査テーマに関連する学術論文を題材に、どこまで明らかにされており、何が課題として残っているか、またどのような方法が用いられているかを読み解く方法について学ぶ。	収集した文献を読み、必要な部分をまとめておく(90分)。	講義で習ったことを参考に、収集した論文で明らかにされていること、課題として残されていることをまとめる(90分)。
担当教員			
第4回	考察やまとめを意識した学術論文の収集方法、整理方法について学ぶ。調査テーマに関する論文だけでなく、関係性を説明できる学術論文の集め方について学ぶ。さらに社会調査における倫理的な配慮についても学ぶ。	収集した文献を読み、研究背景として使える部分をまとめておく(90分)。	先行研究を参考に、研究背景と研究目的をレポートにまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	調査バイアスや交絡因子について学ぶ。バイアスが入ったデータは精度が低くなることを理解し、調査の精度を高めるためにこれらをできるだけ少なくするための方法を学ぶ。	調査時に起きるバイアスや交絡の考え方について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成について整理する。また文献検討により、「方法」の部分に記載する事項について調べる(150分)。
担当教員			

第6回	妥当性と信頼性について学び、調査質問紙を作成する際にどのような点に注意するかについて学ぶ。また報告書の「方法」の部分の記載方法について学ぶ。	調査における妥当性や信頼性について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成や内容について精査する。また講義で習った記載方法に基づいて、自分の調査の「方法」の部分を文章化する(150分)。
担当教員			
第7回	質問の文章化、選択肢の作り方のルール、質問紙のレイアウトについても学ぶ。	調査質問紙作成のルールについて事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査内容を具体的に文章化する。また選択肢も作成する(150分)。
担当教員			
第8回	アンケート実施後のデータの編集方法、パソコンへの入力方法、集計方法について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの集計方法について復習する(30分)。	講義内容をもとに、自分の調査結果を入力するデータベースを作成する(150分)
担当教員			
第9回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。分割表の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	調査質問紙を精査する。また自分のデータをどのように解析するかについてのレポート作成を開始する(120分)。
担当教員			
第10回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。差の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	架空のデータを入れて集計・解析する。その結果に基づき、調査質問紙の修正する(120分)。
担当教員			

第11回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。相関係数の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	調査質問紙、自分のデータをどのように解析するかについてのレポートを作成する(120分)。
担当教員			
第12回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。重複測定一分散分析法について学ぶ。さらに母集団と標本について理解し、母集団から標本を抽出する無作為抽出法について学ぶ。	全数調査と標本調査について調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、レポートを作成する(150分)。
担当教員			
第13回	標本誤差の考え方と社会調査で必要とされる標本数の求め方について学ぶ。	標本誤差や必要なサンプル数について事前に調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、レポートを完成させる(150分)。
担当教員			
第14回	有効回収率とこれを高める必要性について学ぶ。さらに有効回収率を高める工夫について学ぶ。最終レポートの提出を行う。	有効回収率に関して事前に調べておく。また最終レポートを完成し、提出できるように印刷しておく(120分)。	講義の内容をまとめる(60分)。
担当教員			
第15回	最終レポートへの講評により学びを深める。研究デザインとエビデンスレベルについて学び、症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験の特徴について理解する。	症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験について事前に調べておく(30分)。	第15回の講義内容をまとめるとともに、講義全体で習ったことを整理する(150分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>毎回の小レポート、あるいは課題(50点)、研究背景、研究目的、質問紙、解析計画に関するレポート(50点)の総合点で評価する。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>なし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>「統計の基礎」で使用した「4stepエクセル統計」をデータ解析の説明時に用います。第8-12回の授業時には持参ください。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>この講義は、「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		チーム医療概論				ナンバリング	2384
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、續 佳代、松本 信子、鹿内 あずさ、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」に対応する科目である。</p> <p>「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論」と関連する。</p>							
授業の概要							
<p>病と老いの障害の連続化の中で、障害者、高齢者を支えるために医療と福祉と保健、施設と在宅がどう結び合っていくべきか、新しいパラダイムが求められる。予防から治療、リハビリ、社会復帰に至るまで、各専門分野のスタッフとともに職能を存分に発揮するだけでなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが必要である。そのためには、本学における生活習慣病および栄養管理のあり方としての栄養学はもとより、保健予防医学、スポーツ障害に対する運動療法学、日常の諸活動を対象とする作業療法学、コミュニケーション、介護、看護学など全人的ケアに欠かせない分野の理解を深める。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・医療は誰のものか医療が目指すものは何かを理解できる。 ・医療システムとしてのチーム医療の目指すものは何かについて考えることができる。 ・チーム医療の方法論、課題等理解を深めることができる。 							
授業の方法							
<p>講義形式で展開する。パワーポイントと配布印刷物も用いる。</p> <p>グループワークとグループ発表を行う。</p>							
ICT活用							
<p>Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。</p> <p>必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>佐藤(理学療法士)、金谷(作業療法士)、續(薬剤師)、鹿内(看護師)、松本(管理栄養士)は、これまでの臨床・研究の経験を基に授業を展開する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして授業中に適宜、質問を受けます。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	チーム医療総論 チーム医療が推進される背景や概念などを学び、多職種 チーム連携の重要性を理解し学習する。 チーム医療における理学療法士の役割 理学療法の専門性と、チームにおける役割を学ぶ。	チーム医療に関する最新の情 報を調べておくこと(90分)	チーム医療に関する最新の情 報を調べておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	チーム医療における作業療法士の役割 ・“作業”とは？ ・作業療法士は何をする職種なのか？ ・作業療法士がチーム医療で大切にしていること	作業療法士の専門性について 調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	保健医療チームにおける看護職の職種と役割 看護職の国家資格には、保健師、助産師、看護師、准看 護師がある。対象者の健康レベルやライフステージに合わ せた看護職の役割について学ぶ。	看護師の専門性について考え ておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第4回	保健医療チームにおける看護師の活動、及び、他職種と の連携(鹿内) 様々な活動の場における看護師の活動内容と他職種との 連携の方法、及び、その重要性について学ぶ。	前回の講義資料を読んでくるこ と(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第5回	チーム医療における薬剤師の役割 チーム医療において、薬剤師がどのような役割を果たして いるのか、理解する。	薬剤師の専門性について調べ ておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	續 佳代		

第6回	チーム医療における管理栄養士の役割 栄養士・管理栄養士の専門性とチーム医療における役割を学ぶ。	管理栄養士の専門性について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	松本 信子		
第7回	チーム医療のコミュニケーション実習 チーム医療はコミュニケーションや多職種への理解不足が主な要因である。グループワークを通じ、課題の解決方法を体得する。	チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀、金谷 匡紘		
第8回	チーム医療のコミュニケーション実習 チーム医療はコミュニケーションや多職種への理解不足が主な要因である。グループワークを通じ、課題の解決方法を体得する。	チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(80%) 受講態度・意欲等(20%)	
その他	0	なし	
教科書			
なし。 適宜、資料を配布します。			
参考文献			
「チーム医療」とは何か / 細田満和子 著 / 日本看護協会出版会			
履修条件・留意事項等			

無断欠席は厳禁。休んだ場合は欠席届を提出すること。

備考欄

なし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究法				ナンバリング	3410
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている(関心・意欲・態度)」ことと特に 関係がある科目である。これまでに学んできた専門領域の科目と関連し、「理学療法研究セミナー」「理学療法研究Ⅰ」「理学療法研究Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

理学療法における研究の意義、研究計画の立案、先行研究論文の収集の仕方、調査・実験方法および測定機器、計測・データ分析、文献的考察および論文の書き方について学ぶとともに、国内・外の研究論文の読解演習を通して理学療法研究を理解する。

到達目標

理学療法における研究の意義、用語、理論、倫理が説明できる。
 実験・調査計画、計測・データ分析の基本的な手法について説明できる。
 文献的考察を実施することができる。
 論文の作成に関する基本的な手法、考え方について説明できる。

授業の方法

参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。
 学生同士で議論、発表する回を設ける。
 また、興味のある理学療法領域の先行研究の論文を読み、その内容について自身の考えをまとめたレポートを提出する。

ICT活用

Google Form のアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として調査・研究を行ってきた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして発表課題に対するコメント、解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	理学療法研究総論: 理学療法学における研究の位置付けと概要について理解する。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	研究デザイン: 研究デザインの分類、各手法の利点と欠点について実例を通して学ぶ。 対象者のサンプリングについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	測定手法: 理学療法研究で測定する変数とその信頼性、妥当性について学ぶ。 研究における各種バイアスについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	研究倫理: ヘルシンキ宣言、人を対象とした医学系研究の倫理指針について学ぶ。 個人情報の取り扱いについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	統計解析: 基本的な統計技法について学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある研究分野の論文を探すこと。(90分)
担当教員			

第6回	研究計画書の作成法:グループディスカッションを通して、研究計画書を作成する	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある研究分野の論文を探すこと。(90分)
担当教員			
第7回	研究計画書の作成法:グループディスカッションを通して、研究計画書を作成する	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある分野の論文を熟読すること。(90分)
担当教員			
第8回	課題発表:グループで作成した研究計画書の内容を発表する。	第8回目に発表するプレゼンテーション資料を作成する。(90分)	課題発表時に指摘された部分について修正を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度および授業内での課題によって総合的に判定する。	
その他	0	なし	
教科書			
なし			
参考文献			
標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 内山靖編集 医学書院			
履修条件・留意事項等			

なし

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究セミナー				ナンバリング	3412
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
<p>幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持つための科目であり、理学療法の専門領域で学んだ知識を基盤として、特定領域の学習を通して科学的思考を深める。これまでに学んだ全ての科目と関連し、収集した文献等を通して研究テーマに発展させる。卒業研究計画書を作成することにより「理学療法研究Ⅰ」「理学療法研究Ⅱ」の基礎となる。本科目はディプロマポリシーの、理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけていると関連している。</p>							
授業の概要							
<p>理学療法の専門領域で学んだ知識を基盤に、「理学療法研究法」で各自が立案した研究テーマの研究背景について理解を深めるために、先行研究の検索・収集を行い、少人数グループにおいて担当セミナー教員の指導の下に特定領域の学習・討議を通して理学療法についての科学的思考を深める。さらにそれらを基礎として、理学療法研究に向けての研究課題・研究計画を立案する。</p>							
到達目標							
<p>①研究テーマ決定に必要な文献を収集しその概要について紹介することができる。 ②集めた文献等から生じた研究や臨床に対する疑問を基にして研究テーマを立案することができる。 ③具体的な卒業研究計画書を作成することができる。</p>							
授業の方法							
<p>セミナー担当教員の指導の下、少人数による理学療法手技の確認、理学療法研究に関する文献検索など、学生の主体性を重視した演習形式で実施する。</p>							
ICT活用							
<p>対面指導の他に必要に応じて、オンラインにて指導を行う。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、ゼミナール担当教員や所属学生と共に理学療法手技や研究内容の確認および討論を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 本科目の課題や内容およびセミナーの進め方、文献収集の方法を学ぶ。(橋田)	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせを行うこと。(25分)	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせをし、今後の研究の準備を行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第2回	文献収集 研究テーマを探索するために文献の収集を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第3回	文献講読・紹介① 収集した文献を熟読し、その内容をまとめる。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第4回	文献講読・紹介② 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第5回	文献講読・紹介② 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		

第6回	文献講読・紹介④ 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介し、考察に対する自身の意見を発表する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第7回	研究テーマの検討 4年次に行う理学療法研究における研究テーマを検討する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第8回	研究テーマに関する文献収集・講読① 研究テーマに関連した文献の収集を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第9回	研究テーマに関する文献収集・講読② 研究テーマに関連した文献の収集と講読を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第10回	研究テーマに関する文献収集・講読③ 研究テーマに関連した文献の収集と講読を行い、その内容をまとめる。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		

第11回	研究テーマの決定と研究仮説の検討を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第12回	研究テーマを遂行するために必要なデータ収集手段を検討する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第13回	研究テーマを遂行するために必要なデータ収集手段を検討し、少人数グループの中で発表する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第14回	研究テーマ解析方法の検討を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第15回	卒業研究計画書案を作成する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究計画書の作成およびその内容と参加態度を総合的に評価する
その他	0	なし
教科書		
理学療法研究法/内山靖編集/医学書院(理学療法研究法で購入)		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究 I				ナンバリング	4601
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
<p>理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目であり、研究課題に沿った対象者や実験機器の選択、調査表の作成をし、理学療法における科学的検証能力を養う。卒業研究論文作成や卒業研究発表を目指すため「理学療法研究法」「理学療法研究セミナー」と関連し「理学療法研究Ⅱ」の基礎となる。このため理学療法研究ⅠとⅡは連動して実施する。最終的にはDPである、理学療法学における課題を論理的に探求する能力、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける。</p>							
授業の概要							
<p>セミナー教員の指導の下に、研究課題に沿った妥当な実験・調査方法の選択、即ち、対象者および実験機器の選択あるいは調査表を作成し、少人数グループによる実験・調査を通して理学療法における科学的検証能力を養う。</p>							
到達目標							
<p>①研究の目的に沿った実験・調査方法を立案することができる。 ②可能であれば実験・調査を行い、信頼性のあるデータを収集することができる。 ③研究計画にて研究方法まで具体的に立案して、わかりやすくプレゼンテーションすることができる</p>							
授業の方法							
<p>ゼミナー担当教員の指導のもと自らの課題を探求し、その解決を同じゼミナーの所属学生と共に演習形式で実施していく。</p>							
ICT活用							
<p>対面指導の他にオンライン指導を併用して行う</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
ゼミナー担当教員や所属学生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションを受講し、研究の進め方や注意点について理解する。	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせを行い、本科目内での実施方法について熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員との打ち合わせから本科目内での実施方法についての改善点を熟考すること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第2回	研究を立案する① 先行研究と照らし合わせ、自身の研究について考える。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第3回	研究を立案する② 先行研究と照らし合わせ、自身の研究疑問を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第4回	研究を立案する③ 先行研究と照らし合わせ自身の研究疑問を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第5回	研究を立案する④ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		

第6回	研究を立案する⑤ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第7回	研究を立案する⑥ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第8回	研究を立案する⑦ 自身の研究疑問について、明らかにするための具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第9回	研究を立案する⑧ 自身の研究疑問について、明らかにするための具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第10回	研究を立案する⑨ 具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		

第11回	研究計画のまとめ① 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第12回	研究計画のまとめ② 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第13回	研究計画のまとめ③ 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第14回	研究計画の発表① プレゼンテーションによる発表	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第15回	研究計画の発表② プレゼンテーションによる発表	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究立案への論理性、研究方法の実現性、研究実施に対する参加態度、プレゼンテーションを総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。ただし、遵守事項が多いので指導教員の指導のもとにすすめること。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究Ⅱ				ナンバリング	4602
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治						

授業の位置づけ

理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目であり、理学療法研究Ⅰで得られたデータを元に実験・調査研究を完成させることにより、基本的な研究能力を養い、卒業研究論文作成や卒業研究発表を行う。このため「理学療法研究Ⅰ」と連動して実施する科目であり、卒後の理学療法研究の基礎となる。最終的にはDPである、理学療法学における課題を論理的に探求する能力、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける。

授業の概要

セミナー教員の指導の下に、理学療法研究Ⅰで得られた実験や調査データを解析および分析し、その結果を考察する。考察の過程の中で、グループ討議を通して実験および調査研究を完成させ、学科内における研究発表、論文作成まで一連の作業を通して基本的な研究能力を養う。

到達目標

- ① 研究の目的に沿った実験・調査方法を立案することができる。
- ② 障がいを持ち、理学療法が必要な対象者を、研究の対象者として研究を立案することができる。
- ③ 実験や調査データを解析および分析から、論理的に考察することができる。
- ④ 研究論文の抄録を所定の書式で完成させることができる。
- ⑤ 研究論文発表のためのスライドを用いてプレゼンテーションできる。
- ⑥ 研究論文発表における基本的技術、マナーを身につけることができる。

授業の方法

セミナー担当教員の指導のもと自らの課題を探求し、その解決を同じゼミナールの所属学生と共に演習形式で実施していく。

ICT活用

対面指導の他にオンライン指導を併用して行う

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
ゼミナール担当教員や所属学生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。また、研究成果の発表会に伴い、内容についてのコメントを行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の立案① 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人)から検討する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第2回	研究計画の立案② 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人)から検討する	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第3回	研究計画の立案③ 研究疑問の検討として、研究論文を精読する	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第4回	研究計画の立案④ 研究疑問の検討として、研究論文を精読する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第5回	研究計画の立案⑤ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		

第6回	研究計画の立案⑥ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第7回	研究計画の立案⑦ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第8回	研究計画の立案⑧ 実現可能な研究方法を立案する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第9回	研究計画の立案⑨ 実現可能な研究方法を立案する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第10回	研究計画の立案⑩ 研究データのまとめ方、用いる統計解析方法の検討	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		

第11回	研究計画の立案① 研究データのまとめ方、用いる統計解析方法の検討	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第12回	研究データの収集①	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第13回	研究データの収集②	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第14回	研究報告会① 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備して発表する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
第15回	研究報告会② 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備して発表する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、未定、柴田 恵理子、水本		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究立案への論理性、研究方法の実現性、プレゼンテーション、参加態度を総合的に評価する。また、理学療法研究Ⅰの成績評価と連動する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。ただし、遵守事項が多いので指導教員の指導のもとにすすめること。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		医療統計学				ナンバリング	3414
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	加茂 憲一						

授業の位置づけ

様々な現象を表すデータから、本質的な内容を抽出するためには、統計学およびデータ解析の知識が必要である。本講義は、医学的なデータ解析を視野に入れつつ、そのためのツールである統計学を習得する事を目標としている。「統計の基礎」の発展的科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。」と関係がある科目である。

授業の概要

統計学の基礎的な知識を基として、保健医療分野における様々な統計的手法について学習する。8回の講義を用いて、4つのテーマについて各2回ずつを用いて学習する。一つ目は、「統計学の基礎」から、医療統計学で用いる内容として、確率・推定・検定の概念を復習する。二つ目は、検査の有効性を評価する「感度・特異度」に関連する内容である。三つ目は、関連を持つ変数を取り扱う際に多用される「回帰分析」に関連する内容である。四つ目は、センサリングを含むイベント発生までの時間を対象とする「生存時間解析」に関連する内容である。

到達目標

統計学の基本的な内容を復習し、上記3つのテーマに関する内容を活用できるようになることを到達目標とする。

授業の方法

1回90分の講義において、前半の60分はパワーポイントを用いた座学講義を行う。必要に応じて統計フリーソフト「R」を用いた実践法を紹介する。学習内容の定着のため、最後の30分は筆記による演習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
各回の講義の最後に行う演習問題について、解答およびポイントの解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「統計学」の復習①・・・既に学習済の「統計学」から重要な内容を復習する。母集団とサンプルの概念、統計量、確率分布について復習する。	高校数学および第一学年における「統計の基礎」の復習(90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	「統計学」の復習②・・・引き続き、推定、仮説検定に関して復習する。	高校数学および第一学年における「統計の基礎」の復習(90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	感度と特異度・・・検査結果の有効性の評価指標である感度と特異度について学習する。これらの間に存在するトレードオフの概念を理解する。	二項分布 区間推定 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	ROC曲線とカットオフ値・・・陽性・陰性の判断といった意思決定における数値をどのように決定すれば良いのかを理解する。	ROC曲線とカットオフ値・・・陽性・陰性の判断といった意思決定における数値をどのように決定すれば良いのかを理解する。(90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	回帰分析①・・・単回帰の復習を行い、その概念を重回帰に拡張する。最小2乗法に基づくパラメータ推定を理解する。	単回帰 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			

第6回	回帰分析②・・・重回帰に関する様々な事例分析に取り組む。ダミー変数の取り扱いと意味を理解する。	単回帰 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	生存時間解析①・・・イベント発生までの時間に関する解析方法を学習する。センサー症例について理解し、カプラン・マイヤー法に基づき生存曲線を描くことを目標とする。	カイ2乗分布 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	生存時間解析②・・・生存時間の異なる群を比較し、その差異の有無をログランク検定により判断する。併せて仮説検定の考え方についても復習する。	カイ2乗分布 生存関数 センサー症例 検定 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	10	講義後のミニレポート	
その他	90	期末レポート	
教科書			
なし(毎回講義内容のプリントを配布し、最後に演習問題を配布する)			
参考文献			
なし			
履修条件・留意事項等			

高校までの「数学」および第一学年で学習した「統計学」の知識を用いるので、復習をしておくこと。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法管理学					
科目名		理学療法管理学				ナンバリング	3460
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎、南部 路治						
授業の位置づけ							
<p>・ディプロマ・ポリシーの「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。</p> <p>・「医学概論」、「リハビリテーション概論」、「リハビリテーション医学」と関連し、「チーム医療概論」、「地域包括ケアシステム論」の基礎となる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>・理学療法士として職業倫理、チーム医療における理学療法士の役割について理解するとともに、病院・施設の組織および記録・報告、臨床におけるリスク管理、理学療法施設基準、診療報酬等の理学療法部門の管理運営について学習する。</p> <p>・ゲスト講師からの現場での話を聞き、理学療法管理の理解を深める。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法部門の管理・運営について説明できる。 2. 医療専門職として倫理感を有し、理学療法を遂行できる。 3. チーム医療を認識し、その中での理学療法士の役割について説明できる。 4. 医療事故の原因を理解し、事故の予防に努め、リスク管理ができる。 5. 臨床における問題解決法について述べる事ができる。 							
授業の方法							
<p>授業資料のPDFは事前にGoogleクラスルームで提示するので、教科書と併せて確認すること。 授業はパワーポイントを用いた講義形式である。また、理解度の確認として小テストを実施する。 授業に関する質問はGoogleクラスルームでのメールで対応する。</p>							
ICT活用							
Googleのクラスルームを利用するので、ノートPC、タブレット等を持参すること							
実務経験のある教員の教育内容							
担当教員2名は理学療法士としての病院勤務経験があり、その経験を元に、理学療法士に必要とされる管理業務全般について講義を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
小テスト実施後には、解答、解説を行う。また、授業についての質問は適宜受けつける。 ゲスト講師の講義の場合は感想を含めた学びレポートを提出する。必要に応じてコメントを記載する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 理学療法士と管理の関わりについて紹介。組織とは何か、管理(マネージメント)とは何かについて理解する。 (授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第2回	理学療法士の業務に関わる法令と、社会保障制度における理学療法士の役割について理解する。 (授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第3回	専門職と倫理、患者の権利(リスボン宣言)、理学療法士の職業倫理について理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第4回	理学療法におけるリスク管理、とくに安全管理と感染対策について理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第5回	医療保険における各種リハビリテーション料の内容と、施設基準(設備・人的基準)を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第6回	リハビリテーション医療に必要な診療録、ならびに帳票類について理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第7回	職場における人事管理(採用から退職まで)、人的資源計画について検討する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第8回	リハビリテーション部門の業務及び管理について、実際の事例をみて実務を理解する。(課題レポート①20点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第9回	介護保険制度が成立した背景と制度の概要、および主なサービスの内容を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第10回	理学療法士が関わる介護保険サービス(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション)から、維持期リハビリテーションの重要性を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		

第11回	介護保険施設での業務管理(人事管理・帳票管理・多職種連携)について検討する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第12回	介護保険施設での業務や管理の実際の事例を見て、実務を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第13回	理学療法士の卒前・卒後教育の具体的内容と、専門職に必要な生涯学習の重要性を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第14回	理学療法士が将来、教員や研究者をめざすにはどのような取り組みが必要かを理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第15回	理学療法士の経験をもとに起業するには、どのような取り組みが必要かを理解する。(課題レポート②15点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題 13回×各5点=65点 課題レポート①20点 課題レポート②15点を合計して100点満点で評価する
その他	0	なし
教科書		
リハビリテーション管理学 第1版 齋藤昭彦・下田信明編 羊土社		
参考文献		
必要に応じて提示する		
履修条件・留意事項等		
授業態度を重視する。 毎回の授業で授業内課題を行うので欠席しないこと 但し、止むを得ない理由(公欠と認められる)場合には代替方法にて評価する。		
備考欄		
(Blank space for additional notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学Ⅲ				ナンバリング	3444
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松田 直樹、南部 路治						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」に特に関連し、理学療法評価に必要な知識および技術を身につけるための科目である。
 理学療法評価のうち、脳画像および循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の読影を行うための基礎と臨床応用を扱うものである。また、健康関連QOLや患者立脚型評価といった発展的な理学療法評価方法も扱う。
 本科目は、「理学療法評価学Ⅱ」、「神経障害理学療法学」「内部障害理学療法学」などの専門基礎科目全般と関連し、「臨床実習Ⅴ/Ⅵ」などの基礎となる。

授業の概要

近年の医療技術の高度化や地域包括ケアシステムの推進に伴い、理学療法が対象とする障害の構造は重複かつ複雑化している。この状況に対応すべく、理学療法の根幹をなす評価学の基礎をより多角的な視点で学び、卒後の臨床推論能力の向上の礎とするため画像等の評価も含め、教授する。

到達目標

1. 医用画像の撮像原理とその読影法の基礎を身につけることができる
2. 脳画像を活用した理学療法評価について理解できる
3. 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像とその活用について理解できる
4. 健康関連QOLの評価、患者立脚型の評価等について理解できる
5. 喀痰吸引の理論と実際を理解できる

授業の方法

教科書、スライド、配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。
 本講義内容を理解するためには、その基礎となる解剖学・生理学・運動学的知識が必要である。学生は十分に予習をして講義に望むことが望ましい。
 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。

ICT活用

Google classroomを活用して講義資料配布、ミニテストなどを実施する。

実務経験のある教員の教育内容

南部: 総合病院で理学療法士として勤務した経験を生かして、講義を行う
 松田: 神経疾患の専門病院で理学療法士として勤務した経験を生かして、講義を行う

課題に対するフィードバックの方法			
ミニテストの解答解説を講義内で行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	脳画像の基礎 頭部CT, MRI, 拡散テンソル画像の撮像原理と基本的読影方法を学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。 (担当:松田)	脳画像の基礎 頭部CT, MRI, 拡散テンソル画像の撮像原理と基本的読影方法を学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員			
第2回	脳画像を活用した神経理学療法の実際1 脳卒中患者における脳画像診断の臨床応用についての基本的な考え方を学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。 (担当:松田)	教科書・参考文献の当該箇所を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員			
第3回	脳画像を活用した神経理学療法の実際2 脳卒中患者における脳画像診断の臨床応用の実際を症例を通して学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。 (担当:松田)	教科書・参考文献の当該箇所を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員			
第4回	循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の基礎 胸部CT・心エコー等, 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の基本的な読影方法を学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。 (担当:南部)	循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の基礎 胸部CT・心エコー等, 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の基本的な読影方法を学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員			
第5回	循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像を活用した理学療法の実際 胸部CT・心エコー等, 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の臨床応用の実際を症例を通して学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。 (担当:南部)	教科書・参考文献の当該箇所を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員			

第6回	喀痰吸引の理論と実践 喀痰吸引の理論と実際について学ぶ。(担当:南部)	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員			
第7回	患者報告型アウトカムを活用した理学療法の実際 理学療法における健康関連QoL尺度、患者立脚型評価の 基本的概念とその臨床応用について解説する。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する 。(担当:松田)	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員			
第8回	まとめ これまでの授業内容の理解度確認のためテストを行う。(担 当:南部)	これまでの授業内容を復讐して おくこと(90分)。	テスト内容を復習しておくこと (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	まとめテスト(80%) 予習課題の達成度・授業参加態度(20%)	
その他	0		
教科書			
・リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 症例から学び障害を読み解く.編集 : 水間正澄/川手信行.南江堂.2019年			
参考文献			
・改訂第2版コツさえわかればあなたも読めるリハに役立つ脳画像.酒向正春(監),メジカルビュー者,2020			
履修条件・留意事項等			

基本的な解剖生理の用語については、皆さんがある程度理解しているものとして授業を進めることがあります。
講義内容についての質問は積極的に受けしますので、積極的な参加を期待します。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		高次脳機能障害学				ナンバリング	3450
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	太田 久晶						

授業の位置づけ

理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を修得するための科目である。「解剖学Ⅰ」や「解剖学実習」と関連し、「神経障害理学療法学」の基礎となる。

授業の概要

大脳半球損傷後の患者において、運動機能や感覚機能に低下が生じるのみならず、高次脳機能障害も伴う場合がある。そのため、理学療法士がそうした患者に対して、円滑に評価および治療介入を行うためには、患者の示す高次脳機能障害の症状特性について知識を有する必要がある。本講義では、こうした症状の特徴および、その責任病巣について紹介するのみならず、評価方法や頭部画像の読影のポイント、高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方について学習する。

到達目標

1. 高次脳機能障害の各症状について説明することができる。
2. 高次脳機能障害の各症状に対する評価方法について述べるすることができる。
3. 検査結果から症状の特徴を説明することができる。
4. 頭部のCT画像やMRIから病巣部位を説明することができる。
5. 脳の損傷部位から起こりうる高次脳機能障害を推定できる。
6. 高次脳機能障害に対する基本的な治療、介入方法について述べるすることができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)のほか、視聴覚教材(DVD)を活用しながら、講義形式を進める。学習内容の理解度を確認するために、2回目、4回目、6回目、8回目の講義時間内に理解度確認テスト(計4回)を実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

脳神経外科病院や総合病院での作業療法士の勤務経験があり、脳損傷後の高次脳機能障害およびそれに対するリハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を生かして、高次脳機能障害学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
理解度確認テスト及び確認テストについて、解答の解説を行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 高次脳機能障害を学ぶための基礎知識 高次脳機能障害を理解するための脳解剖、頭部画像のみかた、利き手と大脳機能の側性化との関係、病因からみた症状の特徴、評価の進め方について学習する。 視空間認知障害 半側空間無視、および構成障害の定義と症状の特徴、評価方法、病巣部位について学習する。 	教科書のP1-20, 157-178, 193-185を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 半側身体に対する認識障害 片麻痺に対する病態失認、半側身体失認、身体パラフレニアなど、病巣対側身体に対する認識の障害についての定義と評価方法について学習する。 頭頂葉機能障害 Bálint症候群、ゲルストマン症候群、視覚運動失調の各症状に対する定義および、評価方法について学習する。 理解度確認テスト1 	教科書のP179-192を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 失語・失読・失書 失語症状を理解するための基礎知識、症状の定義と特徴、評価および鑑別方法に加え、症状に対応した責任病巣について学習する 	教科書のP21-58を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 失認 失認の定義、視覚情報の処理過程にもとづいた視覚失認の定義と症状の区分、および評価方法について学習する。また、視覚対象に基づいた視覚失認の分類、視覚以外の触覚、聴覚における失認についても学習する。 理解度確認テスト2 	教科書のP111-148を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 健忘(記憶障害)と認知症 記憶の処理過程、記憶の分類方法、疾患または、損傷部位に対応した記憶障害の特徴、認知症の原因と特徴、記憶障害に対する検査方法について学習する。 	教科書のP206-230を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			

第6回	<ul style="list-style-type: none"> 失行、行為および行動障害 失行症の症状分類とそのメカニズム、脳梁離断症状や前頭葉症状として認められる行為、行動の障害の特徴およびそのメカニズム、これらに対する検査方法について学習する。 理解度確認テスト 3 	教科書のP63-101を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 頭部外傷 損傷部位やその特徴について学習する。また、損傷に伴う高次機能障害の特徴を学習する。 遂行機能障害・注意障害 注意の転換、注意の持続性、注意の配分、セットの保持、選択性、流暢性、decision makingなどについて、学習する。 	教科書のP281-291, 201-205を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 知的機能検査 代表的な知的機能検査である、HDS-R、MMS、WAIS-III、レーヴン色彩マトリックス検査、Kohs立方体テストの特徴と結果の解釈の方法について学習する。 高次脳機能障害に対するリハビリテーション 高次脳機能障害に対する基本的な治療、介入方法について学習する。 理解度確認テスト 4 	教科書のP5-6及び各症状に対するリハビリテーションに関する項目を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストを実施する(60%) 理解度確認テスト(4回)の成績は、最終成績の40%に当てる。 	
その他	0	特になし	
教科書			
高次脳機能障害学 第3版／石合純夫 著／医歯薬出版			
参考文献			
CR BOOKS 高次脳機能障害のリハビリテーションVer.3／武田克彦、三村 將、渡邊 修 編／医歯薬出版 実践 高次脳機能障害のみかた／小林俊輔 編／中外医学社			
履修条件・留意事項等			

「解剖学Ⅰ」や「応用解剖学実習」の単位を取得していること。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学実習(1組)				ナンバリング	3502
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	水本 淳、橋田 浩						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」ことも関係する。物理療法学で学んだ知識を実習形式で学習する。

授業の概要

- ・物理療法学で学んだ知識をもとに各種物理療法機器を用いて実習を行う。
- ・機器の使用方法、適応と禁忌、リスク管理を学ぶとともに物理療法の効果について学ぶ。

到達目標

1. 物理療法を安全かつ効果的に実施できる。
2. リスク管理を考慮し、各種物理療法機器を安全に操作できる。
3. 物理療法により得られる生体反応・効果を測定し、結果に基づいて治療効果を考察できる。

授業の方法

- ・グループ単位で各種の物理療法機器を使用し、患者役、治療者役の双方を経験した実習を行う。
- ・また、物理療法に関する課題を各グループに割り振り、その検討した内容を発表する。

ICT活用

googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参すること。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士としての病院勤務の経験から臨床に即した情報を加えながら実習を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法			
PowerPointによるグループ発表を行う。各発表を基に行われるディスカッションに対し適宜教員からのフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この実習で行う物理療法機器全般の紹介と適応、禁忌を学ぶ。 実習後半に発表する課題について、各グループごとの分担、および今後の進め方を検討する。	物理療法学で学んだ内容を復習しておくこと。(30分)	オリエンテーションで示された内容について、予習すべきことを確認する。(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴など)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	温熱療法(高周波療法・光線療法)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第4回	寒冷療法・水治療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第5回	各種電気療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		

第6回	超音波療法、レーザー光線等に関する機器について作用機序や使用方法等を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第7回	力学的作用を用いた治療(牽引療法、バイブレーターなど)に関する機器について作用機序や使用方法を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第8回	プレゼンテーション 各グループ別に割り振られた課題について、パワーポイントを用いた資料を発表し、その内容について全体で検討する。	グループ発表の準備をしておくこと。	発表会での意見を参考に、発表資料を整理し提出すること。
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の授業で提出された課題の内容および参加度、授業態度で評価する。 課題の内容70% 参加度、授業態度30%。	
その他	0		
教科書			
物理療法学改訂第3版 松澤正・江口勝彦 金原出版			
参考文献			
最新理学療法学講座 物理療法学 鳥野 大・川村博文編著 医歯薬出版 CrossLink理学療法学テキスト 物理療法学 吉田英樹編 MEDICAL VIEW			
履修条件・留意事項等			

実習に応じケーシー着用もしくはTシャツ・短パン着用の指示あり。
機材の都合等により順序の入れ替えあり。
毎回の授業で課題があるので欠席をしないこと。
ただし、やむを得ない理由(公欠と認められる)場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学実習(2組)				ナンバリング	3502
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	水本 淳、橋田 浩						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」ことも関係する。物理療法学で学んだ知識を実習形式で学習する。

授業の概要

- ・物理療法学で学んだ知識をもとに各種物理療法機器を用いて実習を行う。
- ・機器の使用方法、適応と禁忌、リスク管理を学ぶとともに物理療法の効果について学ぶ。

到達目標

1. 物理療法を安全かつ効果的に実施できる。
2. リスク管理を考慮し、各種物理療法機器を安全に操作できる。
3. 物理療法により得られる生体反応・効果を測定し、結果に基づいて治療効果を考察できる。

授業の方法

- ・グループ単位で各種の物理療法機器を使用し、患者役、治療者役の双方を経験した実習を行う。
- ・また、物理療法に関する課題を各グループに割り振り、その検討した内容を発表する。

ICT活用

googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参すること。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士としての病院勤務の経験から臨床に即した情報を加えながら実習を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法			
PowerPointによるグループ発表を行う。各発表を基に行われるディスカッションに対し適宜教員からのフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この実習で行う物理療法機器全般の紹介と適応、禁忌を学ぶ。 実習後半に発表する課題について、各グループごとの分担、および今後の進め方を検討する。	物理療法学で学んだ内容を復習しておくこと。(30分)	オリエンテーションで示された内容について、予習すべきことを確認する。(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴など)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	温熱療法(高周波療法・光線療法)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第4回	寒冷療法・水治療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第5回	各種電気療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		

第6回	超音波療法、レーザー光線等に関する機器について作用機序や使用方法等を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第7回	力学的作用を用いた治療(牽引療法、バイブレーターなど)に関する機器について作用機序や使用方法を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第8回	プレゼンテーション 各グループ別に割り振られた課題について、パワーポイントを用いた資料を発表し、その内容について全体で検討する。	グループ発表の準備をしておくこと。	発表会での意見を参考に、発表資料を整理し提出すること。
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の授業で提出された課題の内容および参加度、授業態度で評価する。 課題の内容70% 参加度、授業態度30%。	
その他	0		
教科書			
物理療法学改訂第3版 松澤正・江口勝彦 金原出版			
参考文献			
最新理学療法学講座 物理療法学 鳥野 大・川村博文編著 医歯薬出版 CrossLink理学療法学テキスト 物理療法学 吉田英樹編 MEDICAL VIEW			
履修条件・留意事項等			

実習に応じケーシー着用もしくはTシャツ・短パン着用の指示あり。
機材の都合等により順序の入れ替えあり。
毎回の授業で課題があるので欠席をしないこと。
ただし、やむを得ない理由(公欠と認められる)場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	義肢装具学					ナンバリング	3508
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	牧野 均						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにある「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につける(知識・技能)」ことと特に関係のある科目である。運動器疾患や中枢神経疾患を運動学的に理解し、機能障害に対する効果的な装具や義肢を用いることにより活動能力を高める治療法を学ぶための科目である。「整形外科学」「運動器障害理学療法学」「神経障害理学療法学」「発達障害理学療法学」「日常生活活動学」等多くの科目と関連し、「運動器障害理学療法学実習」「神経障害理学療法学実習」「発達障害理学療法学実習」「日常生活活動学実習」や「臨床実習」等多くの科目の基礎となる。

授業の概要

義肢、装具および自助具の基本的知識について学習する。装具学では、部位別および機能別装具と装着目的、適合判定について学習する。義肢学では、歴史、切断術および股義足、大腿義足、下腿義足などの各種義足と上腕・前腕義手の構造、目的、特徴について理解するとともに、断端管理、義足の適合判定および切断者に対する理学療法の進め方について学習する。

到達目標

- ① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。
- ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。
- ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる

授業の方法

講義資料の一部は適宜PDFにて事前にGoogleクラスルーム上にて配布を行います。教科書とパワーポイントを用いて、講義形式ですすめます。講義終了後に、Googleクラスルーム上もしくは紙面にて講義の確認の課題を行います。初回は、義足及び下肢装具に必要な解剖の知識を確認します。教科書に付属するまた、web動画を応用します。

ICT活用

スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストを回収後、回答の確認を行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 義肢装具概論 義肢学 ① 義肢学総論 下肢切断の理学療法評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書のp18-p49を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し、義肢の基本的用語と下肢切断の理学療法評価について確認する。(90分)
担当教員			
第2回	義肢学 ② 大腿義足ソケットの種類と適合評価 膝義足ソケットの種類と適合評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書のp50～p69を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。義肢の基本的構造について確認しておくこと。大腿義足ソケットの種類と適合評価、膝義足ソケットの種類と適合評価について確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	義肢学 ③ 大腿義足・膝義足のアライメント	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書1のp70～p91を読んでおくこと(90分)	課題を行います。大腿義足・膝義足のアライメントについて確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	義肢学 ④ 下腿義足ソケットの種類と適合評価 サイム義足ソケットの種類と適合評価 下腿義足・サイム義足アライメント	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書のp92～p130を読んでおくこと(90分)	課題を行います。下腿義足とサイム義足の種類・構造とアライメントについて確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	義肢学 ⑤ 股義足ソケットの種類 股義足のアライメント 足部部分義足の種類と適合評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書のp131～p147を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。股義足の種類・構造とアライメントについて確認しておくこと。足部部分義足の種類と適合評価について確認しておくこと。(90分)
担当教員			

第6回	義肢学 ⑥ 継ぎ手の種類とその設定調整法 下肢切断者に対する理学療法プログラム 下肢切断の理学療法	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書p148～p227を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。継ぎ手の種類とその設定調整法、下肢切断者の理学療法を確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	義肢学 ⑦ 上肢切断のリハビリテーション 「義肢学」のまとめの課題 課題後、「義肢学」に関するグループワークを行い自分の考えをまとめて提出	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書p228～p241を読んでおくこと。p18～227を復習しておくこと。(90分)	課題を行います。上肢切断のリハビリテーションと義肢学のまとめについて理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	装具学 ① 装具学総論 下肢装具の構成部品とそのチェックアウト 足継ぎ手の制御機構	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書p242～272読んでおくこと。(90分)	課題を行います。下肢装具の構成部品とチェックアウト、足継ぎ手の制御機構について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	装具学 ② 疾患別の装具療法 脳卒中片麻痺の装具 対麻痺の装具	脳卒中片麻痺、対麻痺の病態について確認しておくこと。教科書p273～302を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。脳卒中片麻痺の装具、対麻痺の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	装具学 ③ 疾患別の装具療法 整形外科的装具 末梢神経障害の装具	整形外科的疾患、上肢の末梢神経疾患について確認しておくこと。教科書p303～p310、p327～p337を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。整形外科的装具、末梢神経疾患の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	装具学④ 疾患別の装具療法 頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具 脊柱側弯症の装具	脊柱疾患について確認しておくこと。教科書p310～p326、p338～p344を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。脊椎疾患の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	装具学⑤ 疾患別の装具療法 小児疾患の装具 関節リウマチの装具	小児の疾患、関節リウマチについて確認しておくこと。教科書p345～p360を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。小児の疾患の装具、関節リウマチの装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	装具学⑥ 靴型装具 車いす・杖	足部の疾患、車いすを使用する疾患について確認しておくこと。教科書p361～p374を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。靴型装具、車いすの構造と処方について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	装具学⑦ 義肢装具の給付制度 短下肢装具装着における歩行分析 装具学のまとめ	福祉制度、歩行の運動学について確認しておくこと。教科書p375～p390を読んでおくこと。(90分)	義肢装具について知識の確認を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	義肢・装具の最近の動向について「装具学」まとめの課題 課題後に、「装具学」に関するグループワークを行い自分の考えをまとめて提出。	義肢装具の給付制度について確認しておくこと。(90分)	義肢装具について知識の確認を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>授業内での課題、およびまとめの「義肢学」および「装具学」のまとめの課題とグループワーク課題の提出と参加態度を総合的に評価する。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>教科書 PT・OTビジュアルテキスト「義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社 義肢学 石川 朗・永富史子編集 中山書店 義肢製作マニュアル 田澤英二著 医歯薬出版株式会社 義肢学 第3版 澤村誠志編集 医歯薬出版株式会社</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>新しく憶えなければならぬことがたくさんあります。毎講義の小テストを通してしっかりと身につけてください。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	義肢装具学実習(1組)					ナンバリング	3510
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	牧野 均						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。義肢装具学の実践について理解し、効果的な臨床応用を学ぶための科目である。その他の実習科目や「臨床実習」の基礎となる。

授業の概要

装具の実習では、足底板、プラスチック短下肢装具を製作することにより、装具の機能と実際の処方について理解を深める。義肢に関しては、実際の下腿切断の患者様、大腿切断の患者様を通して義肢使用調整の実習を行い、義足の機能と異常歩行に対する対処方法について理解を深める。自助具に関しては、種々の自助具の装着により機能を理解する。また、車椅子の採型については車いすの患者様を通して実際の採寸し理解を深める。

到達目標

- ① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。
- ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。
- ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる。

授業の方法

基本的には小グループを編成し、グループごとに装具製作や車いすの設計を行い、製作の実際について学ぶ。また、適宜プリントを用いて内容を確認する。また、車いす設計課題は、「車いすの処方の実際」について「臨床におけるシーティング・設計の実際」について、グループワークにて疾患別の設計を行い、プレゼンテーションを行う。義足や装具の部品、模擬大腿義足を用いて装具の実際について理解する。「義肢の実際」「装具の実際」について、臨床のPTや義肢装具士の先生に見学・講義を行ってもらい、「義肢」「装具」「車いす設計」の実際について学ぶ。

ICT活用

スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
各実習において、課題レポートを提出し、回収後、レポートの解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション プラスチック短下肢装具の製作 歩行とSHB講義 ① 採型と製作 プラスチック短下肢装具の採型・製作を行う。 グループワークにて、疾患を想定し臨時的な装具の設計を行う。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。足部の筋・骨関節の確認をしておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の設計を行う。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	プラスチック短下肢装具の製作 歩行とSHB講義 ② 陽性モデル修正 プラスチック短下肢装具の製作 ③ プラスチック成型へ 車いす ① 講義 ② 車いす設計実習	プラスチック短下肢装具の設計を行う。足部の筋・骨関節の確認をしておく。 車いすの設計に関して、「義肢装具学講義」資料を復習し理解しておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の設計を行う。実習の工程をまとめる。車いす設計についてまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	プラスチック短下肢装具の製作 歩行とSHB講義 ④ 製作、完成へ 車いす ③ 車いす設計 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。	プラスチック短下肢装具の制作を行う。足部の筋・骨関節の確認をしておく。正常歩行について理解しておく。 車いす設計に関して復習をしておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の設計を行う。実習の工程をまとめる。車いす設計についてまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	歩行講義 完成した装具装着にて歩行を行い、「正常歩行との相違」についてグループワークを行う。 正常歩行に関して筋電図解析を行う。 車いす ④ 車いす設計 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。正常歩行について復習をしておく。 車いす設計に関して復習をしておく。(90分)	実習の工程をまとめる。正常歩行と装具歩行の違いについてまとめる。 車いす設計に関してまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	義肢装具の知識の整理・講義 義肢装具のパーツ、構造について理解する。 歩行分析と大腿義足の処方の実際 ・模擬大腿義足を用いて、義足の構造と異常歩行への対処について理解する。 断端包帯の巻き方に関して理解する。 三角巾の巻き方に関して理解する。	義肢装具の部品構造に関して理解しておく。(90分)	義肢装具の部品構造に関して復習を行う。(90分)
担当教員			

第6回	野坂先生講義 ・義肢の実際について	歩行周期と大腿義足の基礎事項について確認しておく。大腿義足・下腿義足のアライメントについて確認しておく。(90分)	正常歩行、大腿義足の処方と異常歩行の対処の実際について確認する。(90分)
担当教員			
第7回	車いす設計の実際とシーティング シーティングの専門家と実際の車いす利用者を招き、「シーティングの実際」と「車いす設計の実際」について学ぶ。 ① 「シーティングの実際」について講義 ② 車いすの処方、設計の実際について実習する。 グループワークにて行った課題について、プレゼンテーションを行う。 ③ シーティングの基本について理解する。 ウレタンを加工し、車いすに装着することによってシーティングの実際について学ぶ。	車いすの基本事項について確認しておく。体幹、下肢の筋関節系の基本について確認しておく。(90分)	車いすの処方の実際について確認し、設計図の修正を行う。シーティングの基本について確認する。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	瀧先生講義 ・装具の実際について 義肢装具のまとめ	装具の処方の実際について講義資料を基に確認しておくこと。(90分)	正常歩行、装具の処方の実際について確認する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習内で製作する装具と製作に取り組む態度、実習に取り組む態度、および毎回のレポート課題および「義肢学」と「装具学」の実際課題、「車いす設計課題」と第8回目実習の「義肢装具のまとめ」を基に総合的に評価する。
その他	0	なし。

教科書

なし。
適宜資料配布。

参考文献

「PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社
義肢製作マニュアル 日本義肢装具学会監修 田澤英二著 医歯薬出版株式会社
装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社
義肢学 石川 朗・永富中子編集 中山書店

履修条件・留意事項等

前期の義肢装具学を十分に理解していることが履修条件となります。
実際の装具製作では、服装は自由ですが汚れても良いものを身につけてください。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	義肢装具学実習(2組)					ナンバリング	3510
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	牧野 均						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。義肢装具学の実践について理解し、効果的な臨床応用を学ぶための科目である。その他の実習科目や「臨床実習」の基礎となる。

授業の概要

装具の実習では、足底板、プラスチック短下肢装具を製作することにより、装具の機能と実際の処方について理解を深める。義肢に関しては、実際の下腿切断の患者様、大腿切断の患者様を通して義肢使用調整の実習を行い、義足の機能と異常歩行に対する対処方法について理解を深める。自助具に関しては、種々の自助具の装着により機能を理解する。また、車椅子の採型については車いすの患者様を通して実際の採寸し理解を深める。

到達目標

- ① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。
- ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。
- ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる。

授業の方法

基本的には小グループを編成し、グループごとに装具製作や車いすの設計を行い、製作の実際について学ぶ。また、適宜プリントを用いて内容を確認する。また、車いす設計課題は、「車いすの処方の実際」について「臨床におけるシーティング・設計の実際」について、グループワークにて疾患別の設計を行い、プレゼンテーションを行う。義足や装具の部品、模擬大腿義足を用いて装具の実際について理解する。「義肢の実際」「装具の実際」について、臨床のPTや義肢装具士の先生に見学・講義を行ってもらい、「義肢」「装具」「車いす設計」の実際について学ぶ。

ICT活用

スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
各実習において、課題レポートを提出し、回収後、レポートの解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション プラスチック短下肢装具の製作 歩行とSHB講義 ① 採型と製作 プラスチック短下肢装具の採型・製作を行う。 グループワークにて、疾患を想定し臨時的な装具の設計を行う。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。足部の筋・骨関節の確認をしておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の設計を行う。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	プラスチック短下肢装具の製作 歩行とSHB講義 ② 陽性モデル修正 プラスチック短下肢装具の製作 ③ プラスチック成型へ 車いす ① 講義 ② 車いす設計実習	プラスチック短下肢装具の設計を行う。足部の筋・骨関節の確認をしておく。 車いすの設計に関して、「義肢装具学講義」資料を復習し理解しておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の設計を行う。実習の工程をまとめる。車いす設計についてまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	プラスチック短下肢装具の製作 歩行とSHB講義 ④ 製作、完成へ 車いす ③ 車いす設計 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。	プラスチック短下肢装具の制作を行う。足部の筋・骨関節の確認をしておく。正常歩行について理解しておく。 車いす設計に関して復習をしておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の設計を行う。実習の工程をまとめる。車いす設計についてまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	歩行講義 完成した装具装着にて歩行を行い、「正常歩行との相違」についてグループワークを行う。 正常歩行に関して筋電図解析を行う。 車いす ④ 車いす設計 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。正常歩行について復習をしておく。 車いす設計に関して復習をしておく。(90分)	実習の工程をまとめる。正常歩行と装具歩行の違いについてまとめる。 車いす設計に関してまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	義肢装具の知識の整理:講義 義肢装具のパーツ、構造について理解する。 歩行分析と大腿義足の処方の実際 ・模擬大腿義足を用いて、義足の構造と異常歩行への対処について理解する。 断端包帯の巻き方に関して理解する。 三角巾の巻き方に関して理解する。	義肢装具の部品構造に関して理解しておく。(90分)	義肢装具の部品構造に関して復習を行う。(90分)
担当教員			

第6回	野坂先生講義 ・義肢の実際について	歩行周期と大腿義足の基礎事項について確認しておく。大腿義足・下腿義足のアライメントについて確認しておく。(90分)	正常歩行、大腿義足の処方と異常歩行の対処の実際について確認する。(90分)
担当教員			
第7回	車いす設計の実際とシーティング シーティングの専門家と実際の車いす利用者を招き、「シーティングの実際」と「車いす設計の実際」について学ぶ。 ① 「シーティングの実際」について講義 ② 車いすの処方、設計の実際について実習する。 グループワークにて行った課題について、プレゼンテーションを行う。 ③ シーティングの基本について理解する。 ウレタンを加工し、車いすに装着することによってシーティングの実際について学ぶ。	車いすの基本事項について確認しておく。体幹、下肢の筋関節系の基本について確認しておく。(90分)	車いすの処方の実際について確認し、設計図の修正を行う。シーティングの基本について確認する。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	瀧先生講義 ・装具の実際について 義肢装具のまとめ	装具の処方の実際について講義資料を基に確認しておくこと。(90分)	正常歩行、装具の処方の実際について確認する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習内で製作する装具と製作に取り組む態度、実習に取り組む態度、および毎回のレポート課題および「義肢学」と「装具学」の実際課題、「車いす設計課題」と第8回目実習の「義肢装具のまとめ」を基に総合的に評価する。
その他	0	なし。

教科書

なし。
適宜資料配布。

参考文献

「PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社
義肢製作マニュアル 日本義肢装具学会監修 田澤英二著 医歯薬出版株式会社
装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社
義肢学 石川 朗・永富中子編集 中山書店

履修条件・留意事項等

前期の義肢装具学を十分に理解していることが履修条件となります。
実際の装具製作では、服装は自由ですが汚れても良いものを身につけてください。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		運動器障害理学療法学				ナンバリング	3512
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	橋田 浩、牧野 均						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにある「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につける(知識・技能)」ことと特に関係のある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」ことも関係する。運動器疾患を運動学のおよび解剖学的に理解し、効果的な治療法を学ぶ。「整形外科学」「基礎運動療法学」と関連し、「運動器障害理学療法学実習」や「臨床実習」の基礎となる。

授業の概要

筋・骨関節の運動器障害に対する理学療法について総合的・系統的に理解する。主な整形外科疾患について部位別、疾患別に病態の確認と、それによって生じる障害の評価や診断について理解する。また、運動療法を主体とした基本的な治療法について学習するとともに治療効果やリスク管理についても理解を深める

- 到達目標**
1. 各々の運動器障害の評価において系統的に評価の進め方を説明できる。
 2. 評価に基づいて障害像を把握し、説明できる。
 3. 各種障害に対する適切な理学療法を選択でき、治療計画を立案できる

授業の方法

授業資料のPDFは事前にGoogleクラスルームに載せるので、教科書と併せて確認すること。授業はパワーポイントを用いて講義形式ですすめる。また、理解度の確認として小テストを実施する。授業に関する質問はGoogleクラスルームでのメールで対応する。

ICT活用

Googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参する事。

実務経験のある教員の教育内容

病院での理学療法士としての実務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
・授業での確認課題については、その授業内または次回授業で解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論 運動器障害の評価と理学療法 運動器障害に対する理学療法の評価・治療の原則を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	機能障害の評価と理学療法、その治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	脊椎・脊髄疾患の病態像、評価、治療手順の基本を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		
第4回	頸髄・脊髄損傷の病態像や評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		
第5回	頸椎疾患、腰部脊柱管狭窄症、腰痛の病態像、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		

第6回	肩関節障害の病態像や評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第7回	関節リウマチの病態、評価、治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	肘関節障害の評価と理学療法の治療手順を理解する 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第9回	大腿骨頸部骨折、変形性股関節症などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第10回	膝関節周囲の骨折、変形性膝関節症などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第11回	足関節周囲の骨折、足部変形などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。(橋田) 【確認テスト:授業6回～10回より出題する】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	スポーツ障害・傷害～とくに上肢の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第13回	スポーツ障害・傷害～とくに下肢の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。火傷による関節拘縮予防の理学療法について理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第14回	末梢神経障害、腕神経叢麻痺、胸郭出口症候群の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第15回	運動器障害理学療法のまとめテストを行う。 【確認テスト:1回～14回より出題する】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題確認実施内容(50%)とまとめテスト(50%)によって判断する
その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 編集:吉尾雅春・小柳琢磨 医学書院		
参考文献		
理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 編集 加藤浩 MEDICAL VIEW 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎 洋 文光堂		
履修条件・留意事項等		
定期試験は行わず、授業内の確認課題と確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。		
備考欄		
(備考欄)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	運動器障害理学療法実習(1組)					ナンバリング	3514
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	高田 雄一、牧野 均						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけ、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける(知識・技能)」と特に関係のある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」とも関係している。整形外科学、基礎運動療法学、運動器障害理学療法学に関連して臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵの基礎となる。

授業の概要

運動器に対する運動療法の基本的な技術を学生相互の実習を通して習得するとともに、障害例に対する評価・問題点の把握、治療手技の選択、治療プログラムの立案を系統的に実施できる能力を養う。

到達目標

1. 運動器障害に対する理学療法評価を理解できる。
2. 運動器障害に対する評価結果から問題点抽出までの一連の過程を理解できる。
3. 運動器障害に対する治療プログラム立案について理解できる。
4. 適切な治療方法の選択、基本的な治療手技について理解できる。
5. 術後のリスク管理を理解できる。

授業の方法

1. ペーパーペイシエントを用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。一連の過程をグループワークを基にまとめる。
2. パワーポイント、教科書を基に説明を行い、運動器疾患の評価、治療手技の実習を行う。

ICT活用

Google classroomを用いる。

実務経験のある教員の教育内容

高田は整形外科で理学療法士として勤務経験があり、現在も継続して整形外科疾患の理学療法に携わっている。その経験を活かして実習を担当する。牧野はせき損センターにおいて理学療法士として23年勤務した経験を活かして基礎運動療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
1. 二人一組もしくは三人一組となり技術練習を行い、方法について確認、指導を行う。 2. 必要に応じてレポート課題を出して理解度を確認して、解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	神経筋促通手技 神経筋促通手技の基本手技の理解と応用を実習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(45分)
担当教員	牧野 均		
第2回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション① 脊髄・頸髄損傷の急性期から慢性期までの運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損急性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	牧野 均		
第3回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション② 脊髄・頸髄損傷の日常生活動作中心に実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損慢性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 6回でグループでまとめたペーパーペイシエント課題を報告する。発表はパワーポイントを用いるものとして、資料をA3サマリーとして配布して説明を行う。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。ペーパーペイシエントに関する課題について、修正を行いサマリーを完成させる。(45分)
担当教員	牧野 均		
第4回	腰痛のリハビリテーション 腰痛症の運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(頸椎脊椎疾患)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 まとめのテストを行う(50分)	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P237-252。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	牧野 均		
第5回	上肢運動器障害に対する理学療法 肩関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(肩関節周囲炎)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P71-81,254-275。運動器障害理学療法学テキストP217-235。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		

第6回	下肢運動器障害に対する理学療法① 股関節を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(大腿骨頸部骨折)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P110-128。運動器障害理学療法学テキストP67-85, 147-185。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	下肢運動器障害に対する理学療法② 膝関節、足関節を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(変形性膝関節症)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P51-70,128-152。運動器障害理学療法学 I P73-116。運動器障害理学療法学テキストP37-65, 87-96。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	5-7回で行った上肢・下肢運動器障害についてのまとめを行う。複数の症例をまとめたサマリーを作成する。まとめのテストを行う(50分)	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(45分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業開始時に行う確認テスト、授業での課題参加態度などを総合的に評価する。まとめのテストは高田、牧野担当いずれも6割以上を合格とする。	
その他	0	なし	
教科書			
運動器障害理学療法学テキスト/細田多穂/南江堂 臨床運動学/小林麻衣,小島 悟/羊土社 骨関節理学療法学第2版/吉尾雅春,福井勉,小柳磨毅/医学書院			
参考文献			
PNFマニュアル 改訂第3版 柳澤 健、乾 公美 南江堂 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎洋 文光堂			
履修条件・留意事項等			

運動器疾患に関連する解剖学、運動学を復習して臨むこと。
運動器障害理学療法や整形外科学の内容について予習、復習をして臨むこと。
授業へは積極的に参加すること。
分からない事柄については、質問等によってその日のうちに解決すること。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	運動器障害理学療法実習(2組)					ナンバリング	3514
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	高田 雄一、牧野 均						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけ、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける(知識・技能)」と特に関係のある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」とも関係している。整形外科学、基礎運動療法学、運動器障害理学療法学に関連して臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵの基礎となる。

授業の概要

運動器に対する運動療法の基本的な技術を学生相互の実習を通して習得するとともに、障害例に対する評価・問題点の把握、治療手技の選択、治療プログラムの立案を系統的に実施できる能力を養う。

到達目標

1. 運動器障害に対する理学療法評価を理解できる。
2. 運動器障害に対する評価結果から問題点抽出までの一連の過程を理解できる。
3. 運動器障害に対する治療プログラム立案について理解できる。
4. 適切な治療方法の選択、基本的な治療手技について理解できる。
5. 術後のリスク管理を理解できる。

授業の方法

1. ペーパーペイシエントを用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。一連の過程をグループワークを基にまとめる。
2. パワーポイント、教科書を基に説明を行い、運動器疾患の評価、治療手技の実習を行う。

ICT活用

Google classroomを用いる。

実務経験のある教員の教育内容

高田は整形外科で理学療法士として勤務経験があり、現在も継続して整形外科疾患の理学療法に携わっている。その経験を活かして実習を担当する。牧野はせき損センターにおいて理学療法士として23年勤務した経験を活かして基礎運動療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
1. 二人一組もしくは三人一組となり技術練習を行い、方法について確認、指導を行う。 2. 必要に応じてレポート課題を出して理解度を確認して、解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	神経筋促通手技 神経筋促通手技の基本手技の理解と応用を実習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(45分)
担当教員	牧野 均		
第2回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション① 脊髄・頸髄損傷の急性期から慢性期までの運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損急性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	牧野 均		
第3回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション② 脊髄・頸髄損傷の日常生活動作中心に実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損慢性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 6回でグループでまとめたペーパーペイシエント課題を報告する。発表はパワーポイントを用いるものとして、資料をA3サマリーとして配布して説明を行う。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。ペーパーペイシエントに関する課題について、修正を行いサマリーを完成させる。(45分)
担当教員	牧野 均		
第4回	腰痛のリハビリテーション 腰痛症の運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(頸椎脊椎疾患)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 まとめのテストを行う(50分)	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P237-252。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	牧野 均		
第5回	上肢運動器障害に対する理学療法 肩関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(肩関節周囲炎)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P71-81,254-275。運動器障害理学療法学テキストP217-235。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		

第6回	下肢運動器障害に対する理学療法① 股関節を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(大腿骨頸部骨折)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P110-128。運動器障害理学療法学テキストP67-85, 147-185。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	下肢運動器障害に対する理学療法② 膝関節、足関節を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(変形性膝関節症)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P51-70,128-152。運動器障害理学療法学 I P73-116。運動器障害理学療法学テキストP37-65, 87-96。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	5-7回で行った上肢・下肢運動器障害についてのまとめを行う。複数の症例をまとめたサマリーを作成する。まとめのテストを行う(50分)	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(45分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業開始時に行う確認テスト、授業での課題参加態度などを総合的に評価する。まとめのテストは高田、牧野担当いずれも6割以上を合格とする。	
その他	0	なし	
教科書			
運動器障害理学療法学テキスト/細田多穂/南江堂 臨床運動学/小林麻衣,小島 悟/羊土社 骨関節理学療法学第2版/吉尾雅春,福井勉,小柳磨毅/医学書院			
参考文献			
PNFマニュアル 改訂第3版 柳澤 健、乾 公美 南江堂 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎洋 文光堂			
履修条件・留意事項等			

運動器疾患に関連する解剖学、運動学を復習して臨むこと。
運動器障害理学療法や整形外科学の内容について予習、復習をして臨むこと。
授業へは積極的に参加すること。
分からない事柄については、質問等によってその日のうちに解決すること。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法学				ナンバリング	3516
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」と特に関連する科目である。神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。臨床推論能力とは、考慮すべき病態、症状、治療、予後を理解したうえで、適切な理学療法介入の意思決定を行うことである。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。本科目は「内科学」「神経内科学」「高次脳機能障害学」などに関連し、「神経障害理学療法学実習」「臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の基礎となる。

授業の概要

神経障害理学療法に必要な臨床推論能力を身につけるための基礎事項の理解を目的とする。講義では、脳卒中、神経難病における理学療法の基本戦略について理解する。またこれらの基盤をなす神経系の構造と機能及び神経科学との関連を理解する。また、本領域における最近のトピックスであるニューロリハビリテーションについて解説する。

到達目標

1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる
2. 神経理学療法法の基盤をなす神経系の構造・機能と理学療法との関連を理解できる
3. 神経理学療法法の基本的な評価、介入戦略、目標設定について理解できる
4. 神経理学療法における臨床推論の過程を理解できる

授業の方法

教科書、スライドを用いて講義形式で進める。必要に応じ、基本的な解剖生理学的用語は理解しているものとして授業をすすめることがある。よって学生は事前に教科書を熟読し、予習したうえで授業に望むことが望ましい。また、理解度確認の確認課題を行う。

ICT活用

ウェブを利用した画像診断の学習法の紹介などを授業内で行う。学生・教員の相互のコミュニケーションや質疑応答などにGoogle classroomを利用する。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当者は病院で理学療法士としての実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法			
授業内での質疑応答、確認テストの解答解説を実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 神経障害理学療法の基礎1:神経系の機能と構造	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	神経障害理学療法の基礎2:感覚・運動システムの障害発生メカニズム-運動機能の観点から-	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	神経障害理学療法の基礎3:感覚・運動システムの障害発生メカニズム-感覚機能の観点から-	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	神経障害理学療法の基礎4:リスクマネジメント	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第5回	脳卒中1:脳卒中中の理学療法における運動療法	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		

第6回	脳卒中2:脳卒中における歩行障害と治療戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	脳卒中3:脳卒中における姿勢・バランス障害と治療戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	脳卒中4:脳卒中急性期における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第9回	脳卒中5:脳卒中回復期における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第10回	脳卒中6:脳卒中生活期における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		

第11回	ニューロリハビリテーション総論:脳卒中に対するニューロリハビリテーション	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第12回	神経難病1:パーキンソン病における理学療法の基本戦略(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第13回	神経難病2:運動失調および免疫性神経疾患における理学療法の基本戦略(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第14回	神経難病3:筋萎縮性側索硬化症における理学療法の基本戦略(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第15回	まとめテスト	これまでの授業内容を十分に復習しておくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義ごとの確認課題(30%)、まとめテスト(70%)
その他	0	
教科書		
神経局在診断, 第6版, Peter Duus(著), 花北順哉(訳), 文光堂 最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社		
参考文献		
病気がみえるVol.7 脳神経, MEDIC MEDIA		
履修条件・留意事項等		
予習・復習を怠らず、主体的かつ積極的な授業への参加を望みます。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	神経障害理学療法実習(1組)					ナンバリング	3518
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」と特に関連する科目である。神経障害理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術・態度・探究心を身につけるための科目であり、神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。本科目は「内科学」「神経内科学」「高次脳機能障害学」などに関連し、「神経障害理学療法実習」「臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の基礎となる。

授業の概要

講義で学んだ知識をもとに、主に脳卒中、神経難病の運動・動作障害に対する理学療法評価と運動療法の実践における要点を習得する。

到達目標

1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる
2. 神経障害理学療法における運動療法を理解し、基本的手技が実践できる
3. 神経障害理学療法の基本的な評価、介入戦略、目標設定について理解できる
4. 神経障害理学療法における臨床推論の過程を理解できる

授業の方法

講義で配布した資料やスライドおよび実技での説明に基づき、実技を行う。
適宜、グループワークや理解度の確認テストを行う。

ICT活用

ウェブを利用した画像診断の学習法の紹介などを授業内で行う。
学生・教員の相互のコミュニケーションや質疑応答などにGoogle classroomを利用する。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当者は病院で理学療法士としての実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法			
授業内での質疑応答、確認課題を実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	脳卒中の理学療法1:臨床推論の基礎および基本所見のとり方を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	脳卒中の理学療法2:神経障害理学療法に必要な理学療法評価および動作観察を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	脳卒中の理学療法3:実際の症例に対する理学療法評価および動作観察の実践について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第4回	脳卒中の理学療法4:神経障害理学療法における統合と解釈、問題点の抽出、治療アプローチの立案・再評価による治療効果の検証を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第5回	脳卒中急性期・回復期における運動療法の要点を学ぶ。長・短下肢装具を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		

第6回	ニューロリハビリテーションの要点を学ぶ。機器の適切な取り扱い方法を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第7回	模擬症例を通して臨床推論を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	まとめ課題:これまでの内容について理解度確認の課題を行う。	これまでの全授業の内容を復習しておくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(30%) 課題内容(70%)	
その他	0		
教科書			
最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社			
参考文献			
授業内で適宜紹介する			
履修条件・留意事項等			

予習・復習を怠らず、主体的かつ積極的な授業への参加を望みます

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法実習(2組)				ナンバリング	3518
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」と特に関連する科目である。神経障害理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術・態度・探究心を身につけるための科目であり、神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。本科目は「内科学」「神経内科学」「高次脳機能障害学」などに関連し、「神経障害理学療法実習」「臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の基礎となる。</p>							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、主に脳卒中、神経難病の運動・動作障害に対する理学療法評価と運動療法の実践における要点を習得する。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる 2. 神経障害理学療法における運動療法を理解し、基本的手技が実践できる 3. 神経障害理学療法の基本的な評価、介入戦略、目標設定について理解できる 4. 神経障害理学療法における臨床推論の過程を理解できる 							
授業の方法							
講義で配布した資料やスライドおよび実技での説明に基づき、実技を行う。適宜、グループワークや理解度の確認テストを行う。							
ICT活用							
ウェブを利用した画像診断の学習法の紹介などを授業内で行う。学生・教員の相互のコミュニケーションや質疑応答などにGoogle classroomを利用する。							
実務経験のある教員の教育内容							
科目担当者は病院で理学療法士としての実務経験を有している。							

課題に対するフィードバックの方法			
授業内での質疑応答、確認課題を実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	脳卒中の理学療法1:臨床推論の基礎および基本所見のとり方を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	脳卒中の理学療法2:神経障害理学療法に必要な理学療法評価および動作観察を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	脳卒中の理学療法3:実際の症例に対する理学療法評価および動作観察の実践について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第4回	脳卒中の理学療法4:神経障害理学療法における統合と解釈、問題点の抽出、治療アプローチの立案・再評価による治療効果の検証を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第5回	脳卒中急性期・回復期における運動療法の要点を学ぶ。長・短下肢装具を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		

第6回	ニューロリハビリテーションの要点を学ぶ。機器の適切な取り扱い方法を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第7回	模擬症例を通して臨床推論を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	まとめ課題:これまでの内容について理解度確認の課題を行う。	これまでの全授業の内容を復習しておくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(30%) 課題内容(70%)	
その他	0		
教科書			
最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社			
参考文献			
授業内で適宜紹介する			
履修条件・留意事項等			

予習・復習を怠らず、主体的かつ積極的な授業への参加を望みます

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法学				ナンバリング	3520
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。この科目では内科領域の疾患に対する理学療法について学ぶ。特に内科学や老年医学などに関連し、他領域の理学療法とも併せて施行される分野である。この講義を基に内部障害理学療法学実習を行う。</p>							
授業の概要							
<p>内部障害とは、WHOによる国際障害分類試案の機能障害の一つに分類される。循環器、呼吸器、代謝系および癌における機能障害の総称である。講義ではこれら対象疾患の病態と評価方法、理学療法の治療とリスク管理について学習する。</p>							
到達目標							
<p>内部障害疾患の病態を理解する。 主な疾患に対する評価指標と理学療法における治療を理解する。 内部障害リハビリテーション・チームの中での理学療法の役割を理解する。</p>							
授業の方法							
<p>教科書および配布資料を基にした講義形式で進める。 適宜パワーポイントを用いる。 毎回講義の初めに確認小テストを行う。</p>							
ICT活用							
<p>適宜ClassRoomにて学習の補助教材の配布、学習到達度の確認などを実施する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>佐藤、南部は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本講義を担当する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
講義内で行う確認小テストに対し適宜フィードバックとして解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、イントロダクション 内部障害に対するリハビリテーションの必要性と理学療法の役割について学ぶ。 がんのリハビリテーション1 がんの病態の理解と治療について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	がんのリハビリテーション2 がんのリハビリテーションについて学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法1 解剖とホルモン、代謝系の生理・生化学、メカニズムについて学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法2 糖尿病の病態・評価について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法3 糖尿病の病態・評価について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第6回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法4 肥満、メタボリックシンドロームとリスク管理について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第7回	呼吸器疾患の理学療法1 呼吸器疾患の病態について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第8回	呼吸器疾患の理学療法2 呼吸器疾患の検査データの読み方について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第9回	呼吸器疾患の理学療法3 呼吸器疾患の評価と理学療法について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第10回	循環器疾患の理学療法1 循環器系の解剖と生理について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第11回	循環器疾患の理学療法2 虚血性心疾患・心不全・末梢動脈疾患の病態を理解し、治療プログラムについて学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第12回	循環器疾患の理学療法3 理学療法治療に必要な循環器機能の評価を学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第13回	循環器疾患の理学療法4 循環器疾患の病期別の理学療法について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第14回	循環器疾患の理学療法5 循環器疾患患者の疾病管理と再発予防について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第15回	内部障害理学療法学のとまとめと確認試験 これまでに学んだ内容についての確認を行う。	前回までの授業内容について復習しておくこと。(90分)	学習理解が不十分であった項目を確認し、復習し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度・出席状況(15%) 最終回の授業で理解度の確認を行う(85%)
その他	0	なし
教科書		
内部障害理学療法 / 高橋哲也ほか / 医学書院		
参考文献		
がんのリハビリテーション / 辻 / 医学書院 生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版		
履修条件・留意事項等		
解剖学・生理学・運動生理学・内科学・病理学が基礎となるため、履修前に十分に復習しておくこと。		
備考欄		
なし		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法実習(1組)				ナンバリング	3522
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。</p> <p>理学療法を行うための基本的知識・技術、課題を論理的思考や判断をもとに探究する能力を身につけることを目的とする科目である。</p> <p>内部障害理学療法学で学んだ内容に基づき実習を行う。</p> <p>内科学や運動生理学などの理解が必要である。</p>							
授業の概要							
<p>講義で学んだ知識をもとに、内部障害を有する患者の評価方法、科学的根拠に基づいた運動療法プログラムの作成方法について実習を通して学習する。</p>							
到達目標							
<p>リンパ浮腫の検査、治療の流れが説明できる。</p> <p>呼吸機能検査を実施し、得られたデータの解釈ができる。</p> <p>呼吸理学療法の徒手的な検査、治療流れが説明できる。</p> <p>バイタルサインの評価からのリスク管理が説明できる。</p> <p>運動耐容能を評価し、適切な運動プログラムを作成できる。</p>							
授業の方法							
<p>教科書、配布資料を使用し実習を行う。</p> <p>終了後に各回レポートを提出する。</p> <p>実習中は他の学生の迷惑にならないように努め、疑問点はその場で質問するなどして理解を深めること。</p> <p>生体データを測定する実習ではそれぞれの結果についてグループディスカッションを行う。</p>							
ICT活用							
<p>適宜classroomにて学習の補助教材の配布する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>各科目担当者の理学療法士としての経験から臨床に即した情報を加えながら実習を進めていく。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
実習で実際に測定されたデータを基にレポートを作成し、得られたデータの意味や数値の平均・分布に関し教員からのフィードバックを与える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 内部障害の運動療法について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	呼吸理学療法評価 バイタルサインのチェック 触診・聴診・打診などについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	呼吸理学療法評価 スパイロメトリーについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	呼吸理学療法 胸部に対する徒手のテクニック・呼吸器疾患に対する運動療法 などについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	リンパ浮腫(医療徒手リンパドレナージ、圧迫療法、運動療法)について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		

第6回	心電図について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第7回	運動負荷試験(フィールド・テスト)について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第8回	心肺運動負荷試験 CPXについて・CPX実施・運動処方箋の作成について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各実習後の提出課題 80% 出席状況および態度 20%	
その他	0	なし	
教科書			
内部障害理学療法学 / 高橋哲也 / 医学書院			
参考文献			
生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版			
履修条件・留意事項等			

ケーシー、Tシャツ、短パン等薄着になれるよう準備する。各回の準備は適宜掲示。
進行順を変更する場合がある。

備考欄

なし

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法実習(2組)				ナンバリング	3522
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。</p> <p>理学療法を行うための基本的知識・技術、課題を論理的思考や判断をもとに探究する能力を身につけることを目的とする科目である。</p> <p>内部障害理学療法で学んだ内容に基づき実習を行う。</p> <p>内科学や運動生理学などの理解が必要である。</p>							
授業の概要							
<p>講義で学んだ知識をもとに、内部障害を有する患者の評価方法、科学的根拠に基づいた運動療法プログラムの作成方法について実習を通して学習する。</p>							
到達目標							
<p>リンパ浮腫の検査、治療の流れが説明できる。</p> <p>呼吸機能検査を実施し、得られたデータの解釈ができる。</p> <p>呼吸理学療法の徒手的な検査、治療流れが説明できる。</p> <p>バイタルサインの評価からのリスク管理が説明できる。</p> <p>運動耐容能を評価し、適切な運動プログラムを作成できる。</p>							
授業の方法							
<p>教科書、配布資料を使用し実習を行う。</p> <p>終了後に各回レポートを提出する。</p> <p>実習中は他の学生の迷惑にならないように努め、疑問点はその場で質問するなどして理解を深めること。</p> <p>生体データを測定する実習ではそれぞれの結果についてグループディスカッションを行う。</p>							
ICT活用							
<p>適宜classroomにて学習の補助教材の配布する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>各科目担当者の理学療法士としての経験から臨床に即した情報を加えながら実習を進めていく。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
実習で実際に測定されたデータを基にレポートを作成し、得られたデータの意味や数値の平均・分布に関し教員からのフィードバックを与える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 内部障害の運動療法について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	呼吸理学療法評価 バイタルサインのチェック 触診・聴診・打診などについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	呼吸理学療法評価 スパイロメトリーについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	呼吸理学療法 胸部に対する徒手のテクニック・呼吸器疾患に対する運動療法 などについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	リンパ浮腫(医療徒手リンパドレナージ、圧迫療法、運動療法)について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		

第6回	心電図について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第7回	運動負荷試験(フィールド・テスト)について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第8回	心肺運動負荷試験 CPXについて・CPX実施・運動処方箋の作成について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各実習後の提出課題 80% 出席状況および態度 20%	
その他	0	なし	
教科書			
内部障害理学療法学 / 高橋哲也 / 医学書院			
参考文献			
生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版			
履修条件・留意事項等			

ケーシー、Tシャツ、短パン等薄着になれるよう準備する。各回の準備は適宜掲示。
進行順を変更する場合がある。

備考欄

なし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法学				ナンバリング	3524
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎						

授業の位置づけ

理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。カリキュラムマップで示している人間発達学、小児科学、神経内科学、整形外科学、理学療法評価学などを基礎とした専門かつ応用的な講義である。本講義はディプロマポリシーの対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できるようになると関連している。

授業の概要

発達過程に障がいを持った人の特徴と理学療法評価・治療について学習する。正常発達の理解に加えて神経障害、運動器障害に起因する運動障害の違いを学習し、それに対する運動療法に関する理論的背景を理解する。脳性まひ、二分脊椎症、ダウン症、早産低出生体重児、発達性協調運動障害などの理学療法を学習する。

到達目標

- 1.正常運動発達と反射の関係を理解し、理学療法へ応用できる
- 2.脳性まひを持つ児・者の発達・神経障害・運動器障害、知覚運動障害と理学療法について理解できる
- 3.発達性協調運動障害の問題と理学療法について理解できる
- 4.発達障害に対するクリニカルリーズニング(理学療法評価、治療、目標設定など)を理解できる
- 5.障がいを持つ子どもと成人を取り巻く社会環境について理解できる

授業の方法

教科書、パワーポイント、動画、配付資料を使用して講義形式ですすめる。
理解度を確認するために、小テストを行う。

ICT活用

必要に応じてオンライン授業を行う。動画を使用して障がいのある子どもを説明する。

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の実務経験があり、現在でも児童発達支援センター等にて小児理学療法を行い、34年経験している。この経験を生かして新生児・乳幼児から大人まで成長した人の障がいに対する理学療法について講義する。障がい種類は発達の遅れや発達性協調運動障害から神経障害である脳性麻痺まで幅広く講義する。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして出席確認の試験を行い、試験回収後、解説する			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達障害・肢体不自由児療育の総論、正常運動発達と異常運動発達① オリエンテーション 発達障害理学療法学の対象となる疾患・概念・歴史、Frame work、発達に関する概念、生後6ヶ月までの運動発達と原始・姿勢反射について学習する。	教科書①第1～4章を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第2回	正常運動発達と異常運動発達② 発達に関する概念、生後6ヶ月以降の運動発達と原始・姿勢反射について学習する 正常児と障がいを持つ子どもの発達の違いについて学習する	教科書①第1～4章を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第3回	脳性まひの総論、評価と理学療法① 脳性まひの原因、定義、筋の性状による分類 脳性まひの運動発達経過(神経系の問題と運動器系の問題)、痙直型四肢麻痺の特徴を学習する。	教科書①第6章を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第4回	脳性まひの評価と理学療法② 痙直型両麻痺の特徴・評価・理学療法を学習する 脳室周囲白質軟化症による脳性まひの理学療法を学習する。さらに多く見られる筋骨格系の問題と装具療法、筋緊張を減弱する手術療法、薬物治療について学習する。	教科書①第7～9章を読んでおく。 教科書②2～4章を読んで、動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第5回	脳性まひの評価と理学療法③ アトーゼ型・失調型の特徴・評価・理学療法、成人期の問題、姿勢ポジショニング、理学療法の必要性について学習する。	教科書①第10章を読んでおく。 教科書②第5～7章を読んで動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			

第6回	ハイリスク児の特徴と理学療法 NICUにおける児の認知・運動特性と評価・理学療法、呼吸・嚥下の問題、ポジショニング、カンガルーケアなどを利用した母子愛着形成、退院後の子育て指導などについて学習する	教科書①第6章と15章を読んでおく。教科書②の第1章を読んで、動画を確認する(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第7回	発達性協調運動障害、精神運動発達遅滞児の特徴と理学療法 近年増加傾向である運動の協調性が問題となる自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、不器用児などの発達の特徴、ダウン症候群をはじめとする筋緊張低下を呈する精神運動発達遅滞児の特徴と理学療法について学習する。	教科書①第12章を読んでおく。教科書②第8・12章を読んで、動画を確認する(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第8回	運動発達遅滞児、子どものスポーツ障害の特徴 運動発達遅滞児の理学療法を学習し、子どもの成長過程によく見られるスポーツ障害の原因と特徴を理解する。	参考書の子どものスポーツ障害とリハビリテーションを読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第9回	神経・筋疾患、脳炎後遺症の特徴と理学療法 先天性筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症などの遺伝形式、運動特徴、評価、理学療法について学習する。また小児期に見られる脳炎後遺症の特徴について学習する。	教科書①第13章を読んでおく。教科書②第9章を読んで動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第10回	小児整形疾患の特徴と理学療法 二分脊椎症、骨形成不全症、軟骨異栄養症、ペルテス病などの特徴・評価・手術療法・理学療法について学習する	教科書①第11章を読んでおく。教科書②の第10章を読んで動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			

第11回	重症心身障害児・者の特徴・評価と理学療法① 運動機能評価、姿勢運動の特徴、摂食、嚥下、呼吸機能の問題と評価・理学療法を学習する 24時間姿勢ケアをはじめとするポジショニングによる身体への影響について学習する	教科書①第14～15章、理学療法評価学の呼吸機能検査を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第12回	重症心身障害児・者の特徴・評価と理学療法② 運動機能評価、姿勢運動の特徴、摂食、嚥下、呼吸機能の問題と評価・理学療法を学習する。在宅で生活している医療的ケア児のフォロー体制、理学療法的視点について学習する。	教科書①第14～15章、理学療法評価学の呼吸機能検査を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第13回	障がいのある児・者の臨床的リーズニングと評価、運動療法(ICFに基づく障害構造の理解) GMFM, GMFCS, PEDI, SMTCPなどの評価バッテリーの意義、評価・治療の具体的進め方、制限因子、目標、プログラムの立案について学習する。さらに運動療法の基盤である運動学習理論、ダイナミックシステムズ理論、筋緊張の解釈、機能的理学療法、ボイタ法等について学習する	教科書①第2章、第6章を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第14回	障がいのある児・者に対する運動療法 ボバース概念について歴史的背景、理論背景、治療例から学習する。	事前配付資料、教科書①第16章を読んでおく(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第15回	到達度の確認	第1回～14回までの講義内容を復習する	配付資料の見直し(270分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題、ふり返りテストの点数、講義の参加態度
その他	0	なし
教科書		
①小児理学療法学テキスト改訂第3版／細田多穂監修／南江堂 ②イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版(後期の実習でも使用)		
参考文献		
脳性まひ児の24時間姿勢ケア／今川忠男監訳／三輪書店 子どものスポーツ障害とリハビリテーション／小山郁／ラビュータ 人間発達学／上杉雅之／医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		
遅刻3回を1回の欠席として計算する。 理解度を確認するために、小テストを行う時があるのでかならず復習すること		
備考欄		
毎回、教科書を使用したレポートを作成していただきます。こちらも成績評価に含みます。 講義資料は事前にgoogle classroomにて提示します。		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法実習(1組)				ナンバリング	3526
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						

授業の位置づけ

理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。子どもの理学療法学の講義で学んだことを中心に、理学療法評価学、基礎運動療法学、人間発達学、神経内科学、運動学等で学んだ知識を実習形式で学習する。本科目はディプロマポリシーの「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できるようになる」と強く関連している。また「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「理学療法やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」にも関連している。

授業の概要

講義で学んだ知識をもとに、実習を通して、正常運動発達、正常運動、各種発達障害に対する理学療法評価と治療の具体的方法について学習する。
 観察実習はゲスト講師から動画によるケース提供がある。発達障害を持つ子どもの運動評価、制限因子、障がい構造、目標の立案、治療プログラムの立案までのClinical Reasoningをサマリー作成を通して学習する。

到達目標

1. 正常運動発達を獲得する背景と理学療法への応用を学習する
2. 障がいを持つ人、健常者の姿勢・動作を観察して、専門用語にて表現できるようになる
3. 障がいを持つ子どもを観察の中から評価し、評価プログラム、制限因子まで統合解釈できるようになる
4. 以上の内容をサマリーシートにまとめることができる
5. 模擬患者に対する治療の考え方、応用方法を修得し実践できる

授業の方法

- ・2人一組で模擬的患者役、理学療法士役になって評価、治療実習を行う。
- ・動画、写真を見て、姿勢運動を観察・分析し、グループディスカッションする
- ・それぞれのケースに対してサマリーシートを作製する。
- ・運動発達の順序に従って実際に運動する

ICT活用

障がいのある子どもの動画をPCまたはタブレット端末で視聴しながら実習を行う。
 学外の臨床理学療法士とwebで動画を配信して動作分析を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の実務経験があり、現在でも病院にて小児理学療法を行い、34年経験している。この小児理学療法分野での長い臨床経験を生かして、実践に応用できる正常運動発達の知識や、模擬的患者から治療実践を学習する。

課題に対するフィードバックの方法			
実習中の課題については、回収して、到達度をチェックする。必要に応じてコメントにてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 脳性麻痺の子どもの動作観察・分析 写真、教科書の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。 ICFによる機能レベルについて学習して、サマリーシートの記載方法を学び、レポートを作成する	教科書第2章の動画を事前確認する(2時間)	実習レポートからサマリーシートを作成する(3時間)
担当教員	横井 裕一郎		
第2回	観察実習① 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。 運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを観察の中で評価する。	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員	横井 裕一郎		
第3回	観察実習② 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員	横井 裕一郎		
第4回	観察実習③ 重症心身障害のある人の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢、呼吸、姿勢ポジショニング等の理学療法場面の観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する	事前に提示する動画、患者情報の確認、教科書第4章の動画を確認する。 また前期に使用した教科書第14章、15章、配布資料を見直すこと(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員	横井 裕一郎		
第5回	正常運動発達と正常運動分析、治療実習① 背臥位～歩行までの正常運動発達、正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前期科目の子どもの理学療法学の運動発達を復習する(1時間)	実習内容を復習する(1時間)
担当教員	横井 裕一郎		

第6回	正常運動発達と正常運動分析、治療実習② 正常運動を学習させるためのハンドリング、また摂食およびその介助の正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前回の配付資料を確認する(1時間)	実習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第7回	評価・治療実習③ 模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。 脳性麻痺や運動発達に問題のある子どもに対して、一般的に行われている運動療法、評価を学ぶ	前回までの学習内容を確認する(1時間)	実習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第8回	まとめと発達障がいを持つ人の講演会・座談会(1.2組合同) 当事者から障がいを持って生きること、生活することについて講演を頂き、意見交換会を通して学習する。	障害を持ちながら生きることの意義について考える(1時間)	講演についての感想文の作製(1時間)
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	3回のサマリーの内容	
その他	20	実習の積極的態度、意見等を加味する。	
教科書			
イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版(前期購入済み)			
参考文献			
小児理学療法学テキスト改訂第3版／細田多穂監修／南江堂(前期購入済み)			
履修条件・留意事項等			

実習参加は原則、白衣着用とする。授業参加には教科書とgoogle classroomで提示する動画を視聴できるパソコンが必要である。
遅刻、欠席は原則、認めません。
積極的に発言できる人、参加できる人は成績ポイントを付与し、成績に加えます

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法実習(2組)				ナンバリング	3526
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						

授業の位置づけ

理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。子どもの理学療法学の講義で学んだことを中心に、理学療法評価学、基礎運動療法学、人間発達学、神経内科学、運動学等で学んだ知識を実習形式で学習する。本科目はディプロマポリシーの「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できるようになる」と強く関連している。また「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「理学療法やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」にも関連している。

授業の概要

講義で学んだ知識をもとに、実習を通して、正常運動発達、正常運動、各種発達障害に対する理学療法評価と治療の具体的方法について学習する。
 観察実習はゲスト講師から動画によるケース提供がある。発達障害を持つ子どもの運動評価、制限因子、障がい構造、目標の立案、治療プログラムの立案までのClinical Reasoningをサマリー作成を通して学習する。

到達目標

1. 正常運動発達を獲得する背景と理学療法への応用を学習する
2. 障がいを持つ人、健常者の姿勢・動作を観察して、専門用語にて表現できるようになる
3. 障がいを持つ子どもを観察の中から評価し、評価プログラム、制限因子まで統合解釈できるようになる
4. 以上の内容をサマリーシートにまとめることができる
5. 模擬患者に対する治療の考え方、応用方法を修得し実践できる

授業の方法

- ・2人一組で模擬的患者役、理学療法士役になって評価、治療実習を行う。
- ・動画、写真を見て、姿勢運動を観察・分析し、グループディスカッションする
- ・それぞれのケースに対してサマリーシートを作製する。
- ・運動発達の順序に従って実際に運動する

ICT活用

障がいのある子どもの動画をPCまたはタブレット端末で視聴しながら実習を行う。
 学外の臨床理学療法士とwebで動画を配信して動作分析を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の実務経験があり、現在でも病院にて小児理学療法を行い、34年経験している。この小児理学療法分野での長い臨床経験を生かして、実践に応用できる正常運動発達の知識や、模擬的患者から治療実践を学習する。

課題に対するフィードバックの方法			
実習中の課題については、回収して、到達度をチェックする。必要に応じてコメントにてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 脳性麻痺の子どもの動作観察・分析 写真、教科書の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。 ICFによる機能レベルについて学習して、サマリーシートの記載方法を学び、レポートを作成する	教科書第2章の動画を事前確認する(2時間)	実習レポートからサマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第2回	観察実習① 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループで子どもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。 運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを観察の中で評価する。	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第3回	観察実習② 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループで子どもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第4回	観察実習③ 重症心身障害のある人の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢、呼吸、姿勢ポジショニング等の理学療法場面の観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する	事前に提示する動画、患者情報の確認、教科書第4章の動画を確認する。 また前期に使用した教科書第14章、15章、配布資料を見直すこと(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第5回	正常運動発達と正常運動分析、治療実習① 背臥位～歩行までの正常運動発達、正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前期科目の子どもの理学療法学の運動発達を復習する(1時間)	実習内容を復習する(1時間)
担当教員			

第6回	正常運動発達と正常運動分析、治療実習② 正常運動を学習させるためのハンドリング、また摂食およびその介助の正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前回の配付資料を確認する(1時間)	実習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第7回	評価・治療実習③ 模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。 脳性麻痺や運動発達に問題のある子どもに対して、一般的に行われている運動療法、評価を学ぶ	前回までの学習内容を確認する(1時間)	実習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第8回	まとめと発達障がいを持つ人の講演会・座談会(1.2組合同) 当事者から障がいを持って生きること、生活することについて講演を頂き、意見交換会を通して学習する。	障害を持ちながら生きることの意義について考える(1時間)	講演についての感想文の作製(1時間)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	3回のサマリーの内容	
その他	20	実習の積極的態度、意見等を加味する。	
教科書			
イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版(前期購入済み)			
参考文献			
小児理学療法学テキスト改訂第3版／細田多穂監修／南江堂(前期購入済み)			
履修条件・留意事項等			

実習参加は原則、白衣着用とする。授業参加には教科書とgoogle classroomで提示する動画を視聴できるパソコンが必要である。
遅刻、欠席は原則、認めません。
積極的に発言できる人、参加できる人は成績ポイントを付与し、成績に加えます

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		日常生活活動学実習(1組)				ナンバリング	3530
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。「解剖学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ」および「日常生活活動学」と関連し、各種障害治療学等科目の基礎となる。

授業の概要

各種障害に応じた日常生活動作の実際について介助法や指導法を学ぶ。また、福祉機器の適応、生活現場の調整の指導法についても日常生活活動室および福祉機器等を使用し、学習する。

到達目標

日常生活に必要となる基本動作および各種障害に応じた基本的な日常生活活動評価が実施できる。
 基本動作の介助・指導・治療が実施できる。
 生活環境に合わせた福祉機器等の使用法を説明することができる。
 住宅改善の評価、指導等が実施できる。

授業の方法

配布資料、教科書に基づき、講義および実習をグループ学習とし、学生間ディスカッションを取り入れる。授業開始時に課題を提示し、授業内で作成する。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として急性期病院、介護老人保健福祉施設に勤務した経験を活かして指導する(佐々木)
 理学療法士として病院、訪問看護事業所、通所介護施設で勤務した経験を活かして指導する(水本)

課題に対するフィードバックの方法			
授業内で示した課題に対して、授業時間の最後に解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 基本姿勢と基本動作1(佐々木) 基本姿勢の特徴と評価法について理解する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第2回	基本姿勢と基本動作2(佐々木) 寝返り、起き上がり動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第3回	基本姿勢と基本動作3(佐々木) 起立、着座動作、歩行動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第4回	基本姿勢と基本動作4(佐々木) 歩行補助として用いられる様々な杖や歩行補助器を知り、実際に使用しながら利用方法や歩行介助・指導方法を検討する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第5回	基本姿勢と基本動作5(水本) 車いす操作と車いす移動の介助、指導方法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。車いすに乗車、操作、介助を屋外環境なども含め実施する。	教科書の関連する部分を読んでおくことが望ましい。(90分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			

第6回	身の回りの動作と生活関連動作1(水本) 入浴、更衣動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	関連する知識の復習をしておくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第7回	身の回りの動作と生活関連動作2、及び身体活動量評価(水本) ・排泄動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	関連する知識の復習をしておくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第8回	Functional Independence Measure(FIM)の実際 (水本) 日常生活活動の評価方法の一つである機能的自立度評価法(FIM)の内容を理解する。教科書に則って、FIM(Ver.3)の採点項目、採点対象、採点基準について学ぶ。実際に使用頻度が多いことから、FIM採点内容の概要および特徴的な採点基準についての確認を実習中に確認し、また筆記でも確認を行う。教科書使用必須。	関連する知識の復習をしておくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業内で作成した課題に対して評価する
その他	10	受講態度・意欲、発表等

教科書

Crosslink 理学療法学テキスト／臼田 滋編／メジカルビュー社
脳卒中の機能評価－SIASとFIM／千野直一他／金原出版

参考文献

標準理学療法日常生活活動学・生活環境学／鶴見隆正／医学書院

履修条件・留意事項等

原則、すべての出席が必要である
主体的かつ積極的な授業態度であること
実習開始前までにケーシーに着替えておくこと

備考欄

なし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	日常生活活動学実習(2組)					ナンバリング	3530
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。「解剖学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ」および「日常生活活動学」と関連し、各種障害治療学等科目の基礎となる。

授業の概要

各種障害に応じた日常生活動作の実際について介助法や指導法を学ぶ。また、福祉機器の適応、生活現場の調整の指導法についても日常生活活動室および福祉機器等を使用し、学習する。

到達目標

日常生活に必要となる基本動作および各種障害に応じた基本的な日常生活活動評価が実施できる。
基本動作の介助・指導・治療が実施できる。
生活環境に合わせた福祉機器等の使用法を説明することができる。
住宅改善の評価、指導等が実施できる。

授業の方法

配布資料、教科書に基づき、講義および実習をグループ学習とし、学生間ディスカッションを取り入れる。授業開始時に課題を提示し、授業内で作成する。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として急性期病院、介護老人保健福祉施設に勤務した経験を活かして指導する(佐々木)
理学療法士として病院、訪問看護事業所、通所介護施設で勤務した経験を活かして指導する(水本)

課題に対するフィードバックの方法			
授業内で示した課題に対して、授業時間の最後に解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 基本姿勢と基本動作1(佐々木) 基本姿勢の特徴と評価法について理解する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第2回	基本姿勢と基本動作2(佐々木) 寝返り、起き上がり動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第3回	基本姿勢と基本動作3(佐々木) 起立、着座動作、歩行動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第4回	基本姿勢と基本動作4(佐々木) 歩行補助として用いられる様々な杖や歩行補助器を知り、実際に使用しながら利用方法や歩行介助・指導方法を検討する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第5回	基本姿勢と基本動作5(水本) 車いす操作と車いす移動の介助、指導方法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。車いすに乗車、操作、介助を屋外環境なども含め実施する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			

第6回	身の回りの動作と生活関連動作1(水本) 入浴、更衣動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第7回	身の回りの動作と生活関連動作2、及び身体活動量評価(水本) ・排泄動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
第8回	Functional Independence Measure(FIM)の実際(水本) 日常生活活動の評価方法の一つである機能的自立度評価法(FIM)の内容を理解する。教科書に則って、FIM(Ver.3)の採点項目、採点対象、採点基準について学ぶ。実際に使用頻度が多いことから、FIM採点内容の概要および特徴的な採点基準についての確認を実習中に確認し、また筆記でも確認を行う。教科書使用必須。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業内で作成した課題に対して評価する	
その他	10	受講態度・意欲、発表等	
教科書			
Crosslink 理学療法学テキスト／臼田 滋編／メジカルビュー社 脳卒中の機能評価－SIASとFIM／千野直一他／金原出版			
参考文献			
標準理学療法日常生活活動学・生活環境学／鶴見隆正／医学書院			
履修条件・留意事項等			

原則、すべての出席が必要である
主体的かつ積極的な授業態度であること
実習開始前までにケーシーに着替えておくこと

備考欄

なし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	理学療法総合セミナー					ナンバリング	4580
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1

担当教員	佐藤 明紀、橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、木村 一志、未定、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治						
------	---	--	--	--	--	--	--

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」に関連する科目である。理学療法を実施するための基本的な専門知識・技術を身につける科目であり、それまでに履修した専門科目の総まとめとなる。

授業の概要

基礎医学、臨床医学、理学療法学の全領域について、4年間を通して学習した知識を整理し、理解を深める。またそれらの知識を応用して種々の疾患・症例に対し適切な理学療法評価・治療ができる能力を高めることを目的とする。学習の形態は課題に沿って講義やグループ学習を中心とし、各領域の講義を教員が行う。

到達目標

- ・基礎医学、臨床医学、理学療法学のそれぞれの内容を正しく理解出来る。
- ・障害の診断に必要な基本的なデータを理解出来る。
- ・各種症例に対し、基礎医学、臨床医学、理学療法学の知識を応用し評価治療計画を立案し、治療手技の選択が出来る。

授業の方法

パワーポイント、配布印刷物、教科書などを用いて講義形式で進める
模擬試験の結果についてはグループ学習を行う

ICT活用

講義は状況に応じてオンライン授業で行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、池野、木村、大森、橋田、松田、横井、柴田、高田、牧野、水本、佐々木、南部は専門領域の担当教員の経験に即した講義を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法			
随時、質問を受け付ける。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 講義内容の説明、スケジュールの確認をする。	シラバスを読んでおくこと	講義スケジュールを確認すること
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	国家試験共通分野1 解剖学分野の問題を理解する	該当分野について事前に教科書を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	国家試験共通分野2 生理学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	木村 一志		
第4回	国家試験共通分野3 運動学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	国家試験共通分野4 整形外科学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		

第6回	国家試験専門分野1 理学療法評価学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	国家試験専門分野2 発達障害理学療法学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第8回	国家試験専門分野3 物理療法学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第9回	国家試験専門分野4 運動療法分野(中枢神経障害)の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第10回	国家試験専門分野5 運動療法分野(運動器障害)の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	国家試験専門分野6 補装具療法分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	牧野 均		
第12回	国家試験専門分野7 地域理学療法分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	水本 淳		
第13回	国家試験専門分野8 日常生活活動分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第14回	国家試験専門分野9 内部障害理学療法分野(呼吸・循環障害)の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	南部 路治		
第15回	国家試験専門分野10 および、まとめと試験 内部障害理学療法分野(がん)の問題を理解する。 これまでの内容を踏まえた試験を実施する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと まとめと試験の準備を行うこと (90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>まとめと試験の結果で判定する。 (ただし、参加状況や出席態度を踏まえ総合的に判定する)</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>指定教科書なし。これまでの教科書を準備する。 各回、担当教員が資料を準備する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>クエスチョン・バンク/メディックメディア</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>国家試験の願書提出後であっても、この科目が未修得であれば卒業不可となり、国家試験を受験することができない。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>なし</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	徒手理学療法技術セミナー(1組)					ナンバリング	3532
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連のある科目である。この科目は「運動学Ⅰ・Ⅱ」を基礎とした科目であり、「臨床実習」につながる。

授業の概要

運動器系(筋骨格系)障害に対する徒手療法(マニュアルセラピー)について学習する。上肢、下肢、脊柱、骨盤に対し運動学的観点から治療の概念を理解し、系統的な障害の評価・診断の進め方および基本的な評価・治療手技について学習する。

到達目標

- ・理学療法における徒手療法の意義について説明できる。
- ・骨運動と関節運動(副運動)の関係を理解し、評価・治療技術を適用できる。
- ・運動機能障害の問題点を系統的に説明できる。
- ・関節および関節の動きや、筋肉を触知でき、徒手療法の基本的評価・治療手技を遂行できる。

授業の方法

テキスト、パワーポイントによる基本事項の説明とデモンストレーションおよび実技を行う。

ICT活用

必要に応じてオンラインでの授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、徒手理学療法幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論Ⅰ：徒手療法の歴史と国際的位置付けについて。治療概念、用語の定義、徒手療法の効果、適応と禁忌について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第2回	総論Ⅱ：関節の構造と運動、組織の治癒過程、評価方法について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・上肢の徒手療法① 肩甲帯の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第4回	・上肢の徒手療法② 肩関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第5回	・上肢の徒手療法③ 肘関節、前腕の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩		

第6回	・上肢の徒手療法④ 手関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第7回	・上肢の徒手療法⑤ 手根骨・手指関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第8回	・下肢の徒手療法① 股関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	・下肢の徒手療法② 膝関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第10回	・下肢の徒手療法③ 膝関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第11回	・下肢の徒手療法④ 足関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第12回	・下肢の徒手療法⑤ 足部の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第13回	脊柱の徒手療法① 脊柱の触診と評価・治療(腰椎、骨盤)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第14回	脊柱の徒手療法② 脊柱の触診と評価・治療(頭部・頸部・胸椎)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第15回	まとめ これまでの徒手療法技術の確認を行う。	まとめのための予習をしておく こと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席、確認テスト、参加態度、理解度等により総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
整形徒手理学療法 富雅男・砂川勇監修 医歯薬出版株式会社		
参考文献		
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A. Neumann 医歯薬出版株式会社		
履修条件・留意事項等		
必要資料は随時配布します。 実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 理学療法治療学						
科目名	徒手理学療法技術セミナー(2組)					ナンバリング	3532
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連のある科目である。この科目は「運動学Ⅰ・Ⅱ」を基礎とした科目であり、「臨床実習」につながる。

授業の概要

運動器系(筋骨格系)障害に対する徒手療法(マニュアルセラピー)について学習する。上肢、下肢、脊柱、骨盤に対し運動学的観点から治療の概念を理解し、系統的な障害の評価・診断の進め方および基本的な評価・治療手技について学習する。

到達目標

- ・理学療法における徒手療法の意義について説明できる。
- ・骨運動と関節運動(副運動)の関係を理解し、評価・治療技術を適用できる。
- ・運動機能障害の問題点を系統的に説明できる。
- ・関節および関節の動きや、筋肉を触知でき、徒手療法の基本的評価・治療手技を遂行できる。

授業の方法

テキスト、パワーポイントによる基本事項の説明とデモンストレーションおよび実技を行う。

ICT活用

必要に応じてオンラインでの授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、徒手理学療法の幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論Ⅰ：徒手療法の歴史と国際的位置付けについて。治療概念、用語の定義、徒手療法の効果、適応と禁忌について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第2回	総論Ⅱ：関節の構造と運動、組織の治癒過程、評価方法について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・上肢の徒手療法① 肩甲帯の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第4回	・上肢の徒手療法② 肩関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第5回	・上肢の徒手療法③ 肘関節、前腕の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩		

第6回	・上肢の徒手療法④ 手関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第7回	・上肢の徒手療法⑤ 手根骨・手指関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第8回	・下肢の徒手療法① 股関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	・下肢の徒手療法② 膝関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第10回	・下肢の徒手療法③ 膝関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第11回	・下肢の徒手療法④ 足関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第12回	・下肢の徒手療法⑤ 足部の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第13回	脊柱の徒手療法① 脊柱の触診と評価・治療(腰椎、骨盤)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第14回	脊柱の徒手療法② 脊柱の触診と評価・治療(頭部・頸部・胸椎)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第15回	まとめ これまでの徒手療法技術の確認を行う。	まとめのための予習をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席、確認テスト、参加態度、理解度等により総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
整形徒手理学療法 富雅男・砂川勇監修 医歯薬出版株式会社		
参考文献		
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A. Neumann 医歯薬出版株式会社		
履修条件・留意事項等		
必要資料は随時配布します。 実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。		
備考欄		
(Blank space for additional notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		スポーツ領域理学療法技術セミナー(1組)				ナンバリング	3533
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	高田 雄一						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」のディプロマ・ポリシーと関係している。理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけるための科目である。スポーツ領域の理学療法として、傷害、パフォーマンス改善に対するアプローチとして有用であるインソールとテーピングの技術について展開する。臨床的な実技授業であり、「整形外科学」、「運動器障害理学療法学」と関連し、「総合臨床実習」の基礎となる。

授業の概要

本科目はスポーツ領域の理学療法技術として、傷害、パフォーマンス改善に対するインソールとテーピングの技術について展開する構成になっている。前半は、インソールを作成するための理論と評価について実技を交えながら学習し、最後はインソール作製を行う。またトップアスリートから多くのスポーツ競技で求められる「速く走る」ために必要なトレーニングについても実習を通して学ぶ。後半は、スポーツ・リハビリテーションや傷害予防の観点から、テーピングについて学び実施できるよう実技練習を行う。

到達目標

1. スポーツ領域の理学療法におけるインソールの意義を説明できる。
2. 足部から身体各分節に生じる運動連鎖を説明できる。
3. インソール作成の手順を説明できる。
4. 関節を安定させるために必要な基本的なテープの巻き方を説明することができる。
5. 代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施することができる。

授業の方法

教員が手技の理論的背景について解説しデモンストレーションを行う。その後、学生同士で実技練習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

医療、スポーツ領域での理学療法士としての経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
授業中の課題に関して、その都度、解説や補足説明を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	歩行におけるインソールの役割1	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	歩行におけるインソールの役割2	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	走動作に必要なトレーニングの実技演習①	歩行、走行について予習すること。(45分)	歩行、走行について復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第4回	走動作に必要なトレーニングの実技演習②	歩行、走行について予習すること。(45分)	歩行、走行について復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第5回	姿勢歩行分析1	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		

第6回	姿勢歩行分析2	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	姿勢歩行分析3 インソール作製導入	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	インソール研磨時の手の使いか方を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	インソール作製1	第7回までの歩行分析結果をまとめる、インソールの研磨について予習すること。(45分)	インソール作成の手順を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	インソール作製2(高田)	第7回までの歩行分析結果をまとめる、インソールの研磨について予習すること。(45分)	インソール作成の手順を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第10回	オリエンテーション。膝関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	足関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第12回	インソール作製3(高田)	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第13回	インソール作製4(高田)	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第14回	アスリートからトレーニング方法を学ぶ1	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第15回	アスリートからトレーニング方法を学ぶ2	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度や課題(30点)および、確認テスト(実技試験70点)を行う。
その他	0	なし
教科書		
入谷式足底板 基礎編 入谷 誠、運動と医学の出版社		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
実技授業の際にはTシャツと短パンを用意すること。 靴底の擦り減っていない中敷きのとれる運動靴を用意すること。		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		スポーツ領域理学療法技術セミナー(2組)				ナンバリング	3533
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	高田 雄一						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」のディプロマ・ポリシーと関係している。理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけるための科目である。スポーツ領域の理学療法として、傷害、パフォーマンス改善に対するアプローチとして有用であるインソールとテーピングの技術について展開する。臨床的な実技授業であり、「整形外科学」、「運動器障害理学療法学」と関連し、「総合臨床実習」の基礎となる。

授業の概要

本科目はスポーツ領域の理学療法技術として、傷害、パフォーマンス改善に対するインソールとテーピングの技術について展開する構成になっている。前半は、インソールを作成するための理論と評価について実技を交えながら学習し、最後はインソール作製を行う。またトップアスリートから多くのスポーツ競技で求められる「速く走る」ために必要なトレーニングについても実習を通して学ぶ。後半は、スポーツ・リハビリテーションや傷害予防の観点から、テーピングについて学び実施できるよう実技練習を行う。

到達目標

1. スポーツ領域の理学療法におけるインソールの意義を説明できる。
2. 足部から身体各分節に生じる運動連鎖を説明できる。
3. インソール作成の手順を説明できる。
4. 関節を安定させるために必要な基本的なテープの巻き方を説明することができる。
5. 代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施することができる。

授業の方法

教員が手技の理論的背景について解説しデモンストレーションを行う。その後、学生同士で実技練習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

医療、スポーツ領域での理学療法士としての経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
授業中の課題に関して、その都度、解説や補足説明を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	歩行におけるインソールの役割1	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	歩行におけるインソールの役割2	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	走動作に必要なトレーニングの実技演習①	歩行、走行について予習すること。(45分)	歩行、走行について復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第4回	走動作に必要なトレーニングの実技演習②	歩行、走行について予習すること。(45分)	歩行、走行について復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第5回	姿勢歩行分析1	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		

第6回	姿勢歩行分析2	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	姿勢歩行分析3 インソール作製導入	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	インソール研磨時の手の使いか方を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	インソール作製1	第7回までの歩行分析結果をまとめる、インソールの研磨について予習すること。(45分)	インソール作成の手順を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	インソール作製2(高田)	第7回までの歩行分析結果をまとめる、インソールの研磨について予習すること。(45分)	インソール作成の手順を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第10回	オリエンテーション。膝関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	足関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第12回	インソール作製3(高田)	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第13回	インソール作製4(高田)	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第14回	アスリートからトレーニング方法を学ぶ1	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第15回	アスリートからトレーニング方法を学ぶ2	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度や課題(30点)および、確認テスト(実技試験70点)を行う。
その他	0	なし
教科書		
入谷式足底板 基礎編 入谷 誠、運動と医学の出版社		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
実技授業の際にはTシャツと短パンを用意すること。 靴底の擦り減っていない中敷きのとれる運動靴を用意すること。		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー(1組)			ナンバリング	3534	
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連のある科目である。

授業の概要

前半は治療的マッサージの理論と実技で、実践的手技を学びます。
 後半はRedcord Neuracで、これはノルウェー王国で開発された治療・エクササイズです。運動器疾患をはじめ、中枢性疾患、小児、高齢者、スポーツなど幅広い分野で予防・治療・リハビリテーション等に活用され国際的にも注目されています。本セミナーはRedcord Neuracの基本的な概念の理解と実技の習得を目的に行います。

到達目標

- ・マッサージの理論を理解する
- ・マッサージの実技を習得する
- ・Redcord Neuracの概念を理解する
- ・Redcordの機能評価(Weak Link)を理解する
- ・Redcordの基本的使用方法がマスターできる
- ・Redcordの臨床応用を行う事ができる

授業の方法

配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、実技とその応用を小グループで行う。

ICT活用

必要に応じてオンラインでの講義を行う。

実務経験のある教員の教育内容

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcordの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・マッサージの理論と実技① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第2回	・マッサージの理論と実技② 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・マッサージの理論と実技③ あん摩・マッサージ・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第4回	・マッサージの理論と実技④ フリクション・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第5回	・マッサージの理論と実技⑤ ファンクショナル・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第6回	•Redcordの理論と実技① Redcord Neuracの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第7回	•Redcordの理論と実技② Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第8回	•Redcordの理論と実技③ 機能評価の方法(Weak Link)OKC(開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	•Redcordの理論と実技④ 感覚-運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第10回	•Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第11回	•Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第12回	•Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第13回	•Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第14回	•Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第15回	•Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ 少人数グループに分け、課題の発表を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること		
備考欄		
都度必要な資料を配布します。		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー(2組)			ナンバリング	3534	
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						
授業の位置づけ							
この科目はディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連のある科目である。							
授業の概要							
前半は治療的マッサージの理論と実技で、実践的手技を学びます。 後半はRedcord Neuracで、これはノルウェー王国で開発された治療・エクササイズです。運動器疾患をはじめ、中枢性疾患、小児、高齢者、スポーツなど幅広い分野で予防・治療・リハビリテーション等に活用され国際的にも注目されています。本セミナーはRedcord Neuracの基本的な概念の理解と実技の習得を目的に行います。							
到達目標							
<p>マッサージの理論を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッサージの実技を習得する ・Redcord Neuracの概念を理解する ・Redcordの機能評価(Weak Link)を理解する ・Redcordの基本的使用方法がマスターできる ・Redcordの臨床応用を行う事ができる 							
授業の方法							
配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、実技とその応用を小グループで行う。							
ICT活用							
必要に応じてオンラインでの講義を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							
両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcordの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・マッサージの理論と実技① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第2回	・マッサージの理論と実技② 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・マッサージの理論と実技③ あん摩・マッサージ・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第4回	・マッサージの理論と実技④ フリクション・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第5回	・マッサージの理論と実技⑤ ファンクショナル・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第6回	•Redcordの理論と実技① Redcord Neuracの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第7回	•Redcordの理論と実技② Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第8回	•Redcordの理論と実技③ 機能評価の方法(Weak Link)OKC(開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	•Redcordの理論と実技④ 感覚-運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第10回	•Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第11回	•Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第12回	•Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第13回	•Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第14回	•Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第15回	•Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ 少人数グループに分け、課題の発表を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること		
備考欄		
都度必要な資料を配布します。		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		高齢者理学療法学				ナンバリング	3562
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」ことも関係する。加齢による生理的变化や高齢者が抱える精神的および身体的問題点を把握した上で理学療法を考える科目であり、様々な疾患学や「老年医学」「生活環境学」と関連し、「地域理学療法」や「チーム医療」などの基礎となる。

授業の概要

加齢による身体面、精神面、情緒面の変化および高齢者の障害および合併症について理解するとともに、高齢者の各種身体機能評価およびトレーニングの実施法及びリスク管理の方法について学習する。また、高齢者の理学療法に対するエビデンスについて理解を深める。

到達目標

- ・高齢者の身体的・精神的・情緒的特徴を説明できる。
- ・高齢者の身体機能、生活機能、認知機能に対する評価法を理解し、実施することができる。
- ・高齢者に対する理学療法の実施法およびリスク管理法について理解し、実施することができる。

授業の方法

教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、小テストを実施し、内容の確認を行う。

ICT活用

Google Form のアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として病院及び介護老人保健施設に勤務した経験をを活かし、多様な問題を抱える高齢者に対する理学療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	高齢者の身体・精神機能の特性およびサルコペニア、フレイルについて理解する。	教科書第1章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	加齢に伴う生理機能、体力、姿勢、歩行機能、認知機能の変化について理解する。	教科書第1章-2を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	高齢者の筋量、筋力、サルコペニアの評価法について理解する。	教科書第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第4回	高齢者の持久力、バランス能力、姿勢、歩行能力、身体活動、認知機能の評価法について理解する	教科書第2章を事前に読んでおくこと。また、小テストに備えて復習をしておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	高齢者に対する筋力トレーニングについて、その基礎理論と実際を理解する。また、1～4回目の内容について理解度確認のため時間内に小テストを行う。	教科書第3章-1を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第6回	高齢者に対するバランス、持久力・歩行トレーニングについて理解する。高齢者の身体活動促進に対するアプローチについて理解する。	教科書第3章2-4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第7回	高齢者の転倒・骨折予防について理解する。	教科書第3章-5を事前に読んでおくこと。またまとめのテストに備えて復習しておくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	高齢者に対する運動および理学療法のエビデンスについて理解する。授業の最後に理解度確認のため、まとめのテストを実施する。	教科書第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する小テスト、まとめのテスト及び授業への参加態度により評価する。	
その他	0	なし	
教科書			
Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学／池添冬芽編／MEDICAL VIEW			
参考文献			
老人のリハビリテーション第8版／福井 園彦監修／医学書院			
履修条件・留意事項等			

なし

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学				ナンバリング	3564
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳、横井 裕一郎						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。」「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」こととも関係する。

授業の概要

- ・地域リハビリテーションの概念及び活動について理解する。
- ・地域理学療法の役割や考え方、方法を理解する。
- ・在宅障害者(児)や高齢者・療養者のニーズの実情を理解する。
- ・地域・在宅における理学療法の展開に向けて、退院時のあり方、医療関係以外の施設リハ、通院・通所指導、訪問指導、地域包括ケアなどの考え方と方法を理解する。

到達目標

- ・地域リハビリテーションの概念や具体的内容について説明できる。
- ・急性期・回復期・生活期・終末期リハビリテーションの各時期に渡って理学療法士の役割を説明できる。
- ・入所・通所・訪問における理学療法について説明できる。
- ・地域包括ケアシステムの展開を述べることができる。

授業の方法

- ・パワーポイントと資料を用いた講義形式で進める。
- ・毎回、授業の理解度確認のため小テストを実施する。
- ・初回と最終回は、事前事後の学習の取り組みのためにレポートを実施する。

ICT活用

- ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。
- ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域理学療法に関する授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。 ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。 			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義ガイダンス 日本の人口推移に伴う地域課題と社会保障制度の概略を学習する。 国際支援および災害時の理学療法について学習する。	社会保障制度について、直近の社会情勢や新聞記事、インターネット等で最新の情報を把握しておくこと。教科書のP35～P37を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第2回	地域理学療法とは何か、地域リハビリテーションの概念・歴史・定義を学び、介護保険法と障害者総合支援法の仕組みについて学習する。	教科書のP1～P30を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第3回	地域包括ケアシステムの中で地域リハビリテーションにかかわるリハビリテーション専門職種に求められる役割、関連職種の専門性を理解し、多職種連携の重要性について学習する。	教科書のP38～P78を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第4回	地域理学療法の展開 I 急性期、回復期、生活期、終末期における国際生活機能分類(ICF)モデルの考え方、利用者ニーズの捉え方を学習する。(水本)	国際生活機能分類(ICF)について、配布資料やインターネットからその内容を読んでおくこと。教科書のP101～P107を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第5回	地域理学療法の展開 II 介護保険サービス下での施設サービス(介護老人保健施設、介護老人福祉施設)、居宅サービス(訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、通所介護、短期入所療養介護など)、障害福祉サービス下での自立支援給付(生活介護、施設入所支援、短期入所、就労移行・継続支援など)について地域資源の実際と理学療法士の役割を学習する。	教科書のP79～P101、P108～P124を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		

第6回	地域理学療法の展開Ⅲ 介護予防と健康増進についての基本的概念と実際の理学療法士の取り組みについて学習する。 スポーツ活動支援および産業分野における理学療法について学習する。	教科書のP125～P161、P203～216を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第7回	地域理学療法の展開Ⅳ 認知症について疾病分類や特徴的な症状を理解し、事例における対応方法について学習する。また、終末期や緩和ケアにおける理学療法士の関わりについて学習する。	教科書のP233～P255を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	地域理学療法の展開Ⅴ 学校保健および特別支援教育における理学療法を学び、北海道内の療育状況について学習する。 「地域理学療法」から学んだことを整理し、理学療法と地域との関連性について自ら考える。	教科書のP271～281を読んでおくこと。 これまで学んだことをノートに整理すること(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト・レポート等(60%) 受講態度・意欲、参加度、発表等(40%)	
その他	0		
教科書			
地域リハビリテーション学テキスト／南江堂			
参考文献			
地域リハビリテーション原論 Ver.7／大田仁史／医歯薬出版 新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社			
履修条件・留意事項等			

講義毎に小テストを実施するので遅刻、欠席しないこと。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学演習(1組)				ナンバリング	3566
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	水本 淳、櫻田 周						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」こととも関係する。

授業の概要

地域リハビリテーションに関連する制度や社会の実態を調査し、また、地域包括ケアを支援する各種の制度やサービスの利用法、福祉用具等の利用法、関連職種との連携についてグループワークを実施し、地域における理学療法士の役割を理解する。

到達目標

- ・地域社会への関心を高め、地域リハビリテーション活動における理学療法士の活動と役割を説明できる。
- ・更にグループワークを通じ、議論の展開を体得できる。
- ・演習を通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。

授業の方法

教科書と配布資料を用いた講義と学外の実態調査およびグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションの形式で実施する。

ICT活用

- ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。
- ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本、櫻田は理学療法士として、これまでの臨床・研究の経験を活かして講義・指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
授業中に適宜、質問を受け付けたり、ディスカッションを通じてフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義ガイダンス 本演習における教育目標、スケジュール、諸注意などについて説明。学生のグループ分け。 グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第4回	グループワークⅡ 各グループに与えられた「学外実習Ⅰ」の課題を整理し、行動計画を立てる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第5回	学外実習Ⅰ 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		

第6回	学外実習 I 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習 I の情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第7回	グループワークⅢ 「学外実習 I」で調査した内容を各グループでまとめる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	グループ発表 「グループワークⅢ」のまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第9回	グループ発表 「グループワークⅢ」のまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第10回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		

第11回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第12回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第13回	グループワークⅤ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第14回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第15回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート等(30%) 発表等(30%) 参加度、受講態度・意欲(40%)
その他	0	
教科書		
地域リハビリテーション学テキスト／南江堂		
参考文献		
地域リハビリテーション原論 Ver.7／大田仁史／医歯薬出版 新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社		
履修条件・留意事項等		
講義ガイダンスには必ず出席すること。学外実習の交通費、入場料等は自己負担です。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学演習(2組)				ナンバリング	3566
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	水本 淳、櫻田 周						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」こととも関係する。

授業の概要

地域リハビリテーションに関連する制度や社会の実態を調査し、また、地域包括ケアを支援する各種の制度やサービスの利用法、福祉用具等の利用法、関連職種との連携についてグループワークを実施し、地域における理学療法士の役割を理解する。

到達目標

- ・地域社会への関心を高め、地域リハビリテーション活動における理学療法士の活動と役割を説明できる。
- ・更にグループワークを通じ、議論の展開を体得できる。
- ・演習を通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。

授業の方法

教科書と配布資料を用いた講義と学外の実態調査およびグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションの形式で実施する。

ICT活用

- ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。
- ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本、櫻田は理学療法士として、これまでの臨床・研究の経験を活かして講義・指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
授業中に適宜、質問を受け付けたり、ディスカッションを通じてフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義ガイダンス 本演習における教育目標、スケジュール、諸注意などについて説明。学生のグループ分け。 グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第4回	グループワークⅡ 各グループに与えられた「学外実習Ⅰ」の課題を整理し、行動計画を立てる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第5回	学外実習Ⅰ 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		

第6回	学外実習 I 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習 I の情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第7回	グループワークⅢ 「学外実習 I」で調査した内容を各グループでまとめる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	グループ発表 「グループワークⅢ」のまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第9回	グループ発表 「グループワークⅢ」のまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第10回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		

第11回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第12回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第13回	グループワークⅤ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第14回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第15回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート等(30%) 発表等(30%) 参加度、受講態度・意欲(40%)
その他	0	
教科書		
地域リハビリテーション学テキスト／南江堂		
参考文献		
地域リハビリテーション原論 Ver.7／大田仁史／医歯薬出版 新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社		
履修条件・留意事項等		
講義ガイダンスには必ず出席すること。学外実習の交通費、入場料等は自己負担です。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅳ(評価)				ナンバリング	3704
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	4
担当教員	高田 雄一、柴田 恵理子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(思考・判断・表現)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と「理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と関係している。理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけ、対象者に配慮しながら理学療法士として主体的な行動ができるようになるための科目である。1年次、2年次の臨床実習に関連して4年次臨床実習の基礎となる。

授業の概要

理学療法実習施設において臨床実習指導者の指導のもとに、実際の症例について理学療法評価の過程を経験する。これまでに学んだ技術を用いて検査・測定を実施し、その結果を解釈・統合し、対象者の障害に関する問題点の抽出までを理解し学習する。また診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得する。

到達目標

1. 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。
2. 対象者の評価に必要な情報収集について理解できる。
3. 適切な検査・測定方法を実施できる。
4. 対象者のリスク管理に配慮できる。
5. 問題点について、実習指導者の見解や説明を理解できる。
6. 専門用語を用いて評価結果を記述できる。

授業の方法

基本的な知識と技術を確認するため、実習前試験(筆記試験、OSCE)を行う。4週間の臨床実習を行い、実習後には報告会、OSCEを実施する。

ICT活用

オリエンテーションに関連する内容は動画にて配信する。

実務経験のある教員の教育内容

高田、松田は理学療法士としての臨床経験、臨床実習指導者の経験を活かして臨床実習Ⅳを担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
臨床実習後に、学内にて実習報告会を実施し、発表、質疑応答を行なう。 必要に応じてゼミ担当教員、臨床実習IV担当教員と面談を行なう。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前学習 基本的な知識と技術を確認するため、実習前試験(筆記試験、OSCE)を実施する。	実習前試験(筆記試験、OSCE)に向けてこれまで学んだ内容について予習する。	試験結果を基に臨床実習に向けた準備を行う。
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	実習前オリエンテーション 実習の手引きをもとに実習内容についての説明と注意事項の確認を行う。	実習の手引きをよく読んでおく。	オリエンテーションにて説明した内容について復習する。
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	4週間の臨床実習を行う。	臨床実習指導者の指導のもとに、理学療法評価を経験し、統合と解釈、問題点の抽出までの過程を理解し学習する。また診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得する。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員	高田 雄一		
第4回	実習後学習 学内において実習報告会および実習後OSCEを行う。	報告会にむけてサマリーシートを作成する。発表の準備を行う。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行う。サマリーシートの修正、再提出を行う。
担当教員	高田 雄一		
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	臨床実習指導者からの報告書
その他	70	実習前試験(筆記試験、OSCE),実習後OSCE 学内での実習報告会および提出物による成績。
教科書		
なし		
参考文献		
臨床実習教育の手引き 第6版 社団法人 日本理学療法士協会		
履修条件・留意事項等		
理学療法評価学、理学療法評価学実習の単位を取得していること。 実習前試験に合格すること。 実習前試験、実習オリエンテーション、臨床実習、報告会、実習後OSCEの遅刻、欠席は原則認めない。 提出物は期限を守り提出すること。		
備考欄		
(Blank space for additional notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅴ(総合)				ナンバリング	4705
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	6
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる脳力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる」、理学療法士としての臨床場面での技術や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている」と関係がある科目である。

授業の概要

理学療法の総合的能力である目標設定、治療プログラムの立案、および実施までの一貫した流れを、実習を通して理解する。

到達目標

- ・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる(理学療法の対象者との関係性構築)
- ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる(チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割)
- ・指導者の直接監督下で、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、①リスク管理について、②理学療法評価について、また、指導者の考えを理解し、指導者と一緒に考え、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅲ・水準Ⅱ・水準Ⅰ)について、③理学療法治療技術におけるプログラム立案および実践ができる

授業の方法

基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、講義(パワーポイント・ハンドアウト)、実習前OSCE(客観的臨床能力試験)を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実験を経験する。実習後には、実習後試験、報告会・グループワークを実施する。

ICT活用

必要に応じて適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

池野は間理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

佐々木は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

水本は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
実習前OSCEの結果をフィードバックし、臨床実習に生かす。また、実習後試験の結果から臨床実習における知識の成果をフィードバックする。また、実習終了後、実習指導者からの成績と学内報告会の成績を踏まえて、ゼミ教員と面談を行い、臨床実習VIに向けての準備を行う。また、学内報告会に引き続きグループワークを実施し、他の学生の実習内容を共有する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習オリエンテーション 実習オリエンテーションを通して実習内容を理解し、実習の準備ができるようにする。(池野、佐々木、水本)	実習の手引きを事前に読んでおく、実習内容を理解しておく。	実習の内容の復習をしておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第2回	実習前OSCE:事前に提示した課題について中枢神経領域・整形外科領域から試験を実施する。その後フィードバックを行い臨床実習に備える。(池野、佐々木、水本)	実習前OSCEに向けて治療室等を使用して準備する。	実習前OSCEの結果を踏まえてできなかった部分を復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第3回	実習前学習:特別講義および自己学習を行い、臨床実習Vの目的を理解する。評価結果に基づいて問題点を抽出し、治療プログラムの立案と実践について学習する。(池野、佐々木、水本)	実習前学習の時間割に沿って事前学習しておく。	実習前学習で理解できなかった点を復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第4回	臨床実習:6週間(令和6年4月15日～5月24日)の実習を臨床実習Vとする。指導者の見本を通して実際の患者の評価・プログラム立案ができるようにする。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員			
第5回	実習後試験 臨床実習で学んだ知識・技術をもとに試験を実施する。(池野、佐々木、水本)	臨床実習で学習した内容を整理し、実習後試験に備える。	実習後試験の結果について復習しておく。
担当教員			

第6回	実習後学習および報告会・グループワーク 臨床実習で学んだ知識・技術をまとめ、学生相互でその内容について説明でき、疑問に思った点は質問できるようにする。報告会の後、グループワークを実施し、他の学生の実習内容を共有する。(池野、佐々木、水本)	6週間の臨床実習の内容をまとめる。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーシートの修正と再提出を行う。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	指導者からの形成的評価をもとに前後のOSCEの結果、発表会、提出物を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版 才藤栄一監修 金原出版株式会社		
参考文献		
姿勢・動作・歩行分析 畠中泰彦 羊土社		
履修条件・留意事項等		
総合臨床実習Ⅴの単位取得を条件として臨床実習Ⅵを履修できる。		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習VI(総合)				ナンバリング	4706
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	6
担当教員	牧野 均、池野 秀則、南部 路治						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。
 全ての科目の基本事項を理解し、実際の理学療法を学ぶための科目である。国家試験や卒業後の臨床における基礎となります。

授業の概要

臨床実習Ⅴの内容を踏まえ、実際の症例の状況の変化に応じた評価手技の応用力を培うとともに、治療の実際に際しても患者の反応や変化を的確に把握し、目標や治療プログラムの変更を含む理学療法を進め方を学ぶ。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。
 臨床実習は、臨床実習Ⅴで学んだ目標設定や治療プログラムの立案をもとに、治療を実施して対象者の反応や変化を的確に把握し再評価することまでを目的とします。
 実習生は診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得していきます。

- 到達目標**
- ① 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。
 - ② 対象者の評価に必要な情報を収集できる。
 - ③ 適切な評価ができる。
 - ④ 対象者のリスク管理に配慮できる。
 - ⑤ 評価結果を統合・解釈し、問題点を抽出できる。
 - ⑥ 問題点の抽出により目標設定、治療プログラム立案ができる
 - ⑦ プログラムに基づいて治療が実践できる。
 - ⑧ 再評価を行い、初期評価から最終評価までの経過を考察することができる。

授業の方法

基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、実技＋口頭試問および講義・実習を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実験を経験する。実習後には報告会を実施する。

ICT活用

ICT活用 e-learningシステムのテスト作成機能、およびZoomやGoogle classroomを用いて遠隔学習を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当者は全員、病院施設での実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法			
ポートフォリオやディリーノートを実習指導者に提出することにより、適宜アドバイスを受ける。また、教員による実習訪問にて、実習状況のフィードバック等を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前オリエンテーションおよび実習前指導(牧野、池野、南部) オリエンテーション:① 実習施設の発表と交通手段・宿泊等の確認 ② 実習に関する注意事項の説明	実習施設の概要、交通手段等について理解する。(90分)	実習に関する注意事項尾について確認する。(90分)
担当教員			
第2回	実習前指導:全員対象とした特別講義・実習、筆記試験、実技+口頭試問および自己学習を行い、臨床実習の目的を理解する。最終評価から統合解釈を行い、考察する知識の確認を行う。臨床理学療法の実習前評価を行う。(牧野、池野、南部)	理学療法治療プログラムを立案するための病態像の知識の確認を行う。(90分×4) 治療を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分×4) 最終評価を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分×4)	実習に向けて初期評価から統合と解釈・最終評価・考察をまとめるまでの理学療法の実践について理解し確認を行う。(90分)
担当教員			
第3回	学外臨床実習:6週間の実習を行う。(牧野、池野、南部) 実際の症例に対し、「見学～協同参加～実践」を通して、「評価」から「統合と解釈」及び「最終評価」を学ぶ。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。(90分)	実施過程をディリーノートに記録し確認を行う。 各担当教員の施設訪問や指導を必要に応じ行う。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回	実習後指導および報告会(牧野、池野、南部) 実習後指導:実習後評価 サマリー提出および自己学習 実習報告会:パワーポイントにて実習にて経験した内容のプレゼンテーションを行う。発表はゼミ単位で行う。 臨床理学療法に関する実習後評価を行う。	6週間の臨床実習を反省的にとらえまとめる。(90分)	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーの修正と再提出を行う。(90分) 病態像の知識の確認を行う。(90分×4) 最終評価を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分×4)
担当教員			

第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習前評価と実習後評価に臨床実習指導者からの報告書を基に総合的に評価する。
その他	0	なし
教科書		
「指定なし」		
参考文献		
「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」才藤 栄一 金原出版 (購入済み)		
履修条件・留意事項等		
実習前オリエンテーション・学外臨床実習・実習報告会いずれも遅刻・欠席は原則認められないので注意すること。臨床実習Ⅴで学んだことが十分理解できていることが条件となります。足りない知識・技術を学び直すことを実習前指導学習の目標としてください。		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅳ《2019カリ》				ナンバリング	4704
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	6
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる脳力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる」、理学療法士としての臨床場面での技術や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。

授業の概要

理学療法の総合的能力である目標設定、治療プログラムの立案、および実施までの一貫した流れを、実習を通して理解する。

到達目標

- ・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる(理学療法の対象者との関係性構築)
- ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる(チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割)
- ・指導者の直接監督下で、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、①リスク管理について、②理学療法評価について、また、指導者の考えを理解し、指導者と一緒に考え、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅲ・水準Ⅱ・水準Ⅰ)について、③理学療法治療技術におけるプログラム立案および実践ができる

授業の方法

基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、講義(パワーポイント・ハンドアウト)、実習前OSCE(客観的臨床能力試験)を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実践を経験する。実習後には、実習後試験、報告会・グループワークを実施する。

ICT活用

必要に応じて適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

池野は間理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅳを担当する。

佐々木は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅳを担当する。

水本は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅳを担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
<p>実習前OSCEの結果をフィードバックし、臨床実習に生かす。また、実習後試験の結果から臨床実習の知識の成果をフィードバックする。また、実習終了後、実習指導者からの成績と学内報告会の成績を踏まえて、ゼミ教員と面談を行い、臨床実習Ⅴに向けての準備を行う。また、学内報告会の後、グループワークを実施し他の学生の实習内容を共有する。</p>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習オリエンテーション 実習オリエンテーションを通して実習内容を理解し、実習の準備ができるようにする。(池野、佐々木、水本)	実習の手引きを事前に読んでおく、実習内容を理解しておく。	実習の内容の復習をしておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第2回	実習前OSCE:事前に提示した課題について中枢神経領域・整形外科領域から試験を実施する。その後フィードバックを行い臨床実習に備える。(池野、佐々木、水本)	実習前OSCEに向けて治療室等を使用して準備する。	実習前OSCEの結果を踏まえてできなかった部分を復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第3回	実習前学習:特別講義および自己学習を行い、臨床実習Ⅳの目的を理解する。評価結果に基づいて問題点を抽出し、治療プログラムの立案と実践について学習する。(池野、佐々木、水本)	実習前学習の時間割に沿って事前学習しておく。	実習前学習で理解できなかった点を復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第4回	臨床実習:6週間(令和5年4月17日～5月26日)の実習を臨床実習Ⅳとする。指導者の見本を通して実際の患者の評価・プログラム立案ができるようにする。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第5回	実習後試験 臨床実習で学んだ知識・技術をもとに試験を実施する。(池野、佐々木、水本)	臨床実習で学習した内容を整理し、実習後試験に備える。	実習後試験の結果について復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		

第6回	実習後学習および報告会・グループワーク 臨床実習で学んだ知識・技術をまとめ、学生相互でその内容について説明でき、疑問に思った点は質問できるようにする。グループワークでは他の学生の実習内容を共有する。(池野、佐々木、水本)	6週間の臨床実習の内容をまとめる。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーシートの修正と再提出を行う。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	指導者からの形成的評価をもとに前後のOSCEの結果、発表会、提出物を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版 才藤栄一監修 金原出版株式会社		
参考文献		
姿勢・動作・歩行分析 畠中泰彦 羊土社		
履修条件・留意事項等		
総合臨床実習Ⅴの単位取得を条件として臨床実習Ⅵを履修できる。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 臨床実習						
科目名	臨床実習Ⅴ《2019カリ》					ナンバリング	4705
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	6
担当教員	牧野 均、池野 秀則、南部 路治						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。</p> <p>全ての科目の基本事項を理解し、実際の理学療法を学ぶための科目である。国家試験や卒業後の臨床における基礎となります。</p>							
授業の概要							
<p>臨床実習Ⅳの内容を踏まえ、実際の症例の状況の変化に応じた評価手技の応用力を培うとともに、治療の実際に際しても患者の反応や変化を的確に把握し、目標や治療プログラムの変更を含む理学療法を進め方を学ぶ。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。</p> <p>臨床実習は、臨床実習Ⅳで学んだ目標設定や治療プログラムの立案をもとに、治療を実施して対象者の反応や変化を的確に把握し再評価することまでを目的とします。</p> <p>実習生は診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得していきます。</p>							
到達目標							
<p>到達目標 ① 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。</p> <p>② 対象者の評価に必要な情報を収集できる。</p> <p>③ 適切な評価ができる。</p> <p>④ 対象者のリスク管理に配慮できる。</p> <p>⑤ 評価結果を統合・解釈し、問題点を抽出できる。</p> <p>⑥ 問題点の抽出により目標設定、治療プログラム立案ができる</p> <p>⑦ プログラムに基づいて治療が実践できる。</p> <p>⑧ 再評価を行い、初期評価から最終評価までの経過を考察することができる。</p>							
授業の方法							
<p>基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、実技＋口頭試問および講義・実習を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実践を経験する。実習後には報告会を実施する。</p>							
ICT活用							
e-learningシステムのテスト作成機能、およびZoomやGoogle classroomを用いて遠隔学習を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							
科目担当者は全員、病院施設での実務経験を有している。							

課題に対するフィードバックの方法			
ポートフォリオやディリーノートを実習指導者に提出することにより、適宜アドバイスを受ける。また、教員による実習訪問にて、実習状況のフィードバック等を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前オリエンテーションおよび実習前指導(牧野、池野、南部) オリエンテーション:① 実習施設の発表と交通手段・宿泊等の確認 ② 実習に関する注意事項の説明	実習施設の概要、交通手段等について理解する。(90分)	実習に関する注意事項尾について確認する。(90分)
担当教員			
第2回	実習前指導:全員対象とした特別講義・実習、筆記試験、実技+口頭試問および自己学習を行い、臨床実習の目的を理解する。最終評価から統合解釈を行い、考察する知識の確認を行う。臨床理学療法の実習前評価を行う。(牧野、池野、南部)	理学療法治療プログラムを立案するための病態像の知識の確認を行う。(90分×4) 治療を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分×4) 最終評価を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分×4)	実習に向けて初期評価から統合と解釈・最終評価・考察をまとめるまでの理学療法の実践について理解し確認を行う。(90分)
担当教員			
第3回	学外臨床実習:6週間の実習を行う。(牧野、池野、南部) 実際の症例に対し、「見学～協同参加～実践」を通して、「評価」から「統合と解釈」及び「最終評価」を学ぶ。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。(90分)	実施過程をディリーノートに記録し確認を行う。 各担当教員の施設訪問や指導を必要に応じ行う。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回	実習後指導および報告会(牧野、池野、南部) 実習後指導:実習後評価 サマリー提出および自己学習 実習報告会:パワーポイントにて実習にて経験した内容のプレゼンテーションを行う。発表はゼミ単位で行う。 臨床理学療法に関する実習後評価を行う。	6週間の臨床実習を反省的にとらえまとめる。(90分)	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーの修正と再提出を行う。(90分) 病態像の知識の確認を行う。(90分×4) 最終評価を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分×4)
担当教員			

第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習前評価と実習後評価に臨床実習指導者からの報告書を基に総合的に評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
教科書 「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」才藤 栄一 金原出版		
履修条件・留意事項等		
実習前オリエンテーション・学外臨床実習・実習報告会いずれも遅刻・欠席は原則認められないので注意すること。臨床実習Ⅴで学んだことが十分理解できていることが条件となります。足りない知識・技術を学び直すことを実習前指導学習の目標としてください。		
備考欄		
(Blank space for notes)		